

# 大阪大学総合学術博物館 年報 2021

大阪大学総合学術博物館  
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2021





## はじめに

2021年度の活動の概要『大阪大学総合学術博物館年報 2021』ここに刊行し、皆様に公開できますことを嬉しく思います。

2021年度はなんとといってもコロナ禍の一年であり、大学も大きく影響を受けたことはいうまでもありません。そのような中で博物館活動も展開せねばなりませんでしたが、展覧会につきましては、予定通りすべて開催することができましたことは喜ばしいことと感じます。春期には2021年度は大阪大学創立90周年／大阪外国語大学創立100周年記念事業として、大学創立周年記念展「街に生きる学問－学都大阪の礎・つなぎあう想い」を開催いたしました。この周年を記念して、大阪大学では、全学をあげて記念の式典や国際会議、またさまざまなイベントを開催するはずでした。ですがコロナ禍によりその多くは中止、また延期となりました。その中で博物館はなんとか工夫して開催することができました。関係の皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。また秋期には第15回特別展「乙女文楽－開花から現在まで」を開催しました。この他にも、日文研との共同の「身体イメージの創造－感染症時代に考える伝承・医療・アート」展、社会人講座「微しの上を鳥が飛ぶⅢ」による二つの展覧会「パブリックアートってなんだ？－《タイムストーンズ 400》と考える」、金森マユ写真展「定住とはなんだろう：オーストラリア」を開催し、コロナ禍といえども展覧会は変わらず開催できました。

しかしもちろん影響は多くありました。多くのイベントがオンラインでの開催になり、また中止を余儀なくされたりもしました。それは致し方のないことで、それらはすべて今年度から徐々に回復し、一層充実した将来の活動のための叡智を養っていたのだと考えたいです。

その今年度からは、総合学術博物館は、学内の隣接する組織と統合が計画中で、新しい大学ミュージアムのための組織づくりに向かっています。世界に伍する研究大学を標榜している大阪大学の大学ミュージアムですから、そのような世界のトップユニバーシティの大学博物館の研究教育社会貢献活動に見劣りのしないものに向ささせていくことが求められています。

このコロナ禍の年の経験を乗り越えて、世界の有数な大学博物館に伍するような力を発揮していきたいと念じています。そのためにも今後も努力して参りたく思いますので、どうか今まで以上のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2022年10月

大阪大学総合学術博物館長

永田 靖





# 目 次

<b>1. 展覧会報告Ⅰ</b> .....	5
大阪大学創立90周年 / 大阪外国語大学創立100周年記念事業 大学創立周年記念展 街に生きる学問 ―学都大阪の礎・つなぎあう想い―	
・ 概要 .....	6
・ 報告（大阪大学総合学術博物館 准教授 宮久保 圭祐） .....	9
<b>2. 展覧会報告Ⅱ</b> .....	15
大阪大学総合学術博物館第15回特別展 「乙女文楽 ―開花から現在まで―」	
・ 概要 .....	16
・ 報告（大阪大学総合学術博物館 助教 横田 洋） .....	19
<b>3. 展覧会報告Ⅲ</b> .....	25
大阪大学総合学術博物館特別展 「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」	
・ 概要 .....	26
・ 報告（大阪大学総合学術博物館 講師 伊藤 謙） .....	29
<b>4. 展覧会報告Ⅳ</b> .....	35
大阪大学総合学術博物館展覧会 「パブリックアートってなんだ？ ―《タイムストーンズ400》と考える」	
・ 概要 .....	36
・ 報告（大阪大学大学院文学研究科 特任助教（常勤） 山崎 達哉） .....	39
<b>5. 展覧会報告Ⅴ</b> .....	43
大阪大学総合学術博物館金森マユ写真展 「定住とはなんだろう：オーストラリア」	
・ 概要 .....	44
・ 報告（大阪大学総合学術博物館 館長 永田 靖） .....	46
<b>6. サイエンスカフェ</b> .....	53
・ 2021年度（サイエンスカフェ@待兼山 No.162～166） .....	55
<b>7. 豊中市立小中学生理科展サテライト展示</b> .....	57



<b>8. 教員活動報告</b> .....	61
総合学術博物館 館長 永田 靖 .....	62
総合学術博物館 研究・教育部	
・資料基礎研究系 准教授 辻野 博文 .....	66
・資料先端研究系 教授 上田 貴洋 .....	71
准教授 豊田 二郎 .....	74
准教授 宮久保圭祐 .....	75
・資料情報研究系 教授 橋爪 節也 .....	76
助教 横田 洋 .....	82
総合学術博物館 資料部	
講師 伊藤 謙 .....	83
<b>9. 資料</b> .....	85
・2021年度の主な活動一覧 .....	86
・入館者数集計結果一覧 .....	88
・団体見学一覧 .....	89
・関連記事一覧 .....	90
・寄贈図書一覧 .....	91
・館内配置図 .....	96

## 1. 展覧会報告 I

大阪大学創立 90 周年 / 大阪外国語大学創立 100 周年記念事業  
大学創立周年記念展

# 街に生きる学問

—学都大阪の礎・つなぎあう想い—



## 概 要

大阪大学創立 90 周年/大阪外国語大学創立 100 周年記念事業 大学創立周年記念展「街に生きる学問 ー学都大阪の礎・つなぎあう想いー」を 2021 年 6 月 3 日(木)から 8 月 10 日(火)の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

大阪大学は 1931 年に官民一体となった招致運動と地元の貢献により設立された。また現在の外国語学部の前身である大阪外国語大学は、篤志家の林蝶子が「大阪に国際人を育てる学校を」と想い資金を提供し 1921 年に設立された大阪外国語学校に始まる。本展覧会では、全学に保管されている学術資料や記録により、江戸時代の適塾・懐徳堂から、両大学が今日まで市民と共に歩んできた道程を、常設展示を含めた展示により振り返った。

本展覧会中の期間中の来場者は、新型コロナ感染拡大の影響もあり、823 名であった。

---

### 大阪大学創立 90 周年/大阪外国語大学創立 100 周年記念事業 大学創立周年記念展

テーマ：「街に生きる学問 ー学都大阪の礎・つなぎあう想いー」

期 間：2021 年 6 月 3 日(木) ～ 2021 年 8 月 10 日(火)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム 3 階セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館、豊中市

共 催：大阪大学外国語学部、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ、  
大阪大学大学院文学研究科懐徳堂研究センター、豊中市市民ホール等指定管理者

協 力：咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

入館者数：823 名

#### <オンラインミュージアムレクチャー>

4 月 29 日(木)

「大坂に生きた緒方洪庵と適塾生」

松永 和浩 (大阪大学適塾記念センター 准教授)

「阪大・外大の 90 年・100 年を振り返る」

菅 真城 (大阪大学アーカイブズ 教授)

参加者数：77 名

6 月 12 日(土)

第一部講演「外国語学部のこれまでの歩みと今後の展望」

竹村 景子

(大阪大学外国語学部長/大阪大学大学院言語文化研究科 教授)

第二部 教員・同窓生・学生によるパネルディスカッション

参加者数：61 名

7 月 10 日(土)

「生命を支える蛋白質機能の精巧な仕組み」

月原 富武 (大阪大学名誉教授 (蛋白質研究所))

「ノーベル賞はかくして生まれたー湯川秀樹と大阪大学」

細谷 裕 (大阪大学名誉教授 (大阪大学大学院理学研究科))

参加人数：58 名

大阪大学創立90周年／大阪外国語大学創立100周年記念事業



大学創立周年記念展

# 街に生きる学問

—学都大阪の礎—  
つなぎあう想い—



OSAKA UNIVERSITY



2021年4月27日(火) — 8月10日(火) 11:00—16:00 (入館は15:30まで)

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館料：無料

日曜日・祝日は休館

4月30日(金)、5月1日(土)は大阪大学の大学祭である「いちよう祭」に事前申込された方のみご入館いただけます。  
申込方法等の詳細は、大阪大学ホームページにてお知らせいたします。



主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市  
共催：大阪大学外国語学部、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ、  
大阪大学大学院文学研究科懐徳堂研究センター、豊中市市民ホール等指定管理者  
協力：咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

【写真】左上 昭和10年前後、堂島川を挟み手前が大阪帝国大学医学部、向かいが大阪帝国大学医学部附属病院(後の附属病院)  
右上 上本町にあった大阪外国語学校(後に大阪外国語大学)  
中央 現代の大阪市街



大正時代後期から昭和初期の大阪は、「大大阪」と呼ばれ東京をものぐ東洋一の大都市でした。経済、産業、文化の発展には、当時大阪になかった総合大学の設置が必要不可欠であり、市民と自治体が一体となって、1931(昭和6)年に大阪大学(当時は大阪帝国大学)は誕生しました。

それに先立つこと1921(大正10)年に「大阪に国際人を育てる学校を」の想いから篤志家の林蝶子が私財を寄付して大阪外国語学校が設立されました。1949(昭和24)年に全国でも二校しかない国立の外国語大学として生まれ変わった大阪外国語大学は、2007(平成19)年には大阪大学と統合しました。大阪大学外国語学部としての再出発です。両大学の強みを生かしたさらなる教育・研究の展開を進め、この春には外国語学部の箕面新キャンパスが誕生しました。

今年2021(令和3)年には大阪大学の創立90周年、大阪外国語大学の創立100周年を迎えます。両大学は生い立ちこそ違えど、人々の想いをつなぐことにより生まれ育まれ、学問を究め社会の発展に貢献してきました。

学都大阪の礎となり、世界に羽ばたく大学としてどのように発展してきたのか、一世紀にわたるその歩みを振り返ります。

## ◆ 展示品紹介



緒方洪庵(自筆)「扶氏医戒之略」、1857(安政4)年、適塾記念センター所蔵(緒方惟之氏旧蔵)(※前期展示)



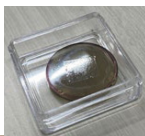
緒方洪庵の薬箱(壮年期使用)、19世紀、適塾記念センター所蔵(緒方裁吉氏旧蔵)(※後期展示)



「大阪府野中古墳出土品(6号甲冑)」(国指定重要文化財)、5世紀、文学研究科所蔵(写真提供 大阪大学文学研究科)



カツオ由来還元型チトクロムc パルサモデル(第51号化学遺産)、1969~1971(昭和44~46)年、蛋白質研究所所蔵



旧ソ連のルナ計画(1970(昭和45)年~1976(昭和51)年)により月の砂が持ち帰られた。ルナ16号の月の砂とその顕微鏡写真(視野は約1cm四方)、理学研究科所蔵(日本宇宙フォーラム 協力)



大型地球儀、附属図書館 外国学図書館所蔵



林蝶子女士顕彰銅板、1922(大正11)年、外国語学部所蔵

(※) 展示会期中の一部期間で展示いたします。詳しい展示期間は博物館HPでお知らせします。

◆ 来館のみなさまへ 新型コロナウイルス感染症の予防のため会期・イベント等を変更・中止する場合があります。また、現在当館では入場人数の制限や開館時間の短縮、来館者の皆様へのマスクの着用や健康チェックシートのご記入等をお願いしております。来館やイベント申込にあたっては、事前にホームページでご確認ください。

## ◆ 関連イベント

※各イベントはいずれも参加費無料・要申込  
申込方法等の詳細は、大阪大学総合学術博物館HP  
(<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>)にてご案内いたします。

### オンラインミュージアムレクチャー

◆ 4月29日(木・祝) 13時30分~15時

「大坂に生きた緒方洪庵と適塾生」

松永 和浩 大阪大学適塾記念センター 准教授

「阪大・外大の90年・100年を振り返る」

菅 真城 大阪大学アーカイブズ 教授

◆ 6月12日(土) 13時30分~15時

「外国語学部のこれまでの歩みと今後の展望」

第一部 講演

竹村 景子 大阪大学外国語学部長  
大阪大学大学院言語文化研究科 教授

第二部 教員・同窓生・学生によるパネルディスカッション

◆ 7月10日(土) 13時30分~15時

「生命を支える蛋白質機能の精巧な仕組み」

月原 富武 大阪大学名誉教授(蛋白質研究所)

「ノーベル賞はかくして生まれたー湯川秀樹と大阪大学」

細谷 裕 大阪大学名誉教授(大学院理学研究科)

※本展示会に係るミュージアムレクチャーはすべてオンラインにて行います。視聴に必要な環境のご準備及び操作については参加者の皆様でご準備くださいますようお願いいたします。

## シンポジウム

豊中市制施行85周年記念事業

「アートとサイエンス 大学とつくる街のすがた」

◆ 6月20日(日) 13時30分~15時30分

コーディネーター: 福田 知弘 大阪大学大学院工学研究科 准教授

パネラー: 小島 剛 大阪音楽大学 特任准教授

宮久保 圭祐 大阪大学総合学術博物館 准教授  
他

開催場所: 豊中市立文化芸術センター多目的室

阪急宝塚線・曽根駅より徒歩約5分(公共交通機関でご来場ください)

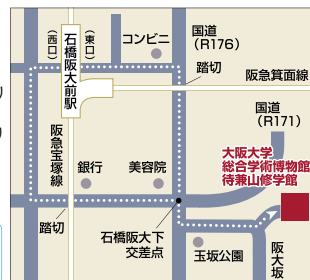


大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel:06-6850-6284 Fax:06-6850-6720

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



- 阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分
- 大阪モノレール・柴原阪大前駅より徒歩約20分
- ※ 公共交通機関をご利用ください。

## 報 告

大阪大学創立 90 周年 / 大阪外国語大学創立 100 周年記念事業  
大阪大学総合学術博物館 大学創立周年記念展

「街に生きる学問－学都大阪の礎・つなぎあう想い－」

大阪大学総合学術博物館  
准教授 宮久保 圭祐

2021 年は大阪大学創立 90 周年、そして大阪大学外国語学部の前身である大阪外国語大学の創立 100 周年にあたり、当館においても、それにふさわしい展覧会の検討を進めた。当初の案として、博物館所蔵資料に限らず学内の各部局に保管されている様々な学術資料・記念物を大学のこれまでの活動の遺産として展示し、それと約一世紀に及ぶ大阪大学と大阪の歴史を絡ませることを考えはじめた。またそれは当館の常設展示とも方向性が一致することから、展覧会に合わせた常設展示の変更も視野に入れたものであった。

それを実現するために、各部局に所属する博物館兼任教員に資料の推薦をお願いするとこらからこの企画の具体化作業が始まった。一つの展覧会に兼任教員全体に協力を呼び掛けることは、しばらく例を見なかったことなのでやや不安もあったが、当館と関係の深い理学研究科・文学研究科を中心に多数の推薦を得ることができた。しかしながら、数量が不足気味だったことと部局ごと、分野ごとにやや偏りが生じていたので、過去に博物館において企画展や常設展示にかかわった部局・教員に展示資料の提供を要請し企画を進めていった。

ところがこの時点でも大きな課題となっていたのは、大阪外国語大学 100 周年の記念展覧会であるにもかかわらず、外国語大学に関する展示内容を確定できていなかったことである。この原因の一つとして兼任教員への連絡が大学院主体で行われていたため、企画の一つの中心である外国語学部に企画内容や資料推薦の要請がうまく伝達されていなかったことが後日判明した。そこで改めて企画内容の説明、資料調査への協力、展覧会の共催を 2021 年の 1 月末に申し込み、正式な面談が実現したのは 2021 年の 2 月初旬のことであった。展覧会直前の依頼にもかかわらず、企画の趣旨と展覧会の共催に賛同していただき、資料ならびに情報の提供について協力いただくこととなった。また、大阪外国語大学を阪大の一部としてではなく独立の歴史を歩んだ教育機関として扱うべきとの助言をいただいた。このような協力をいただいて記念の年にふさわしい充実した展覧会の実現に目途をつけることができた。しかしながら、すでに箕面新キャンパスへの移転作業が進行しつつあることにより、資料調査や借用にも制限が課せられる状況だった。それでも同窓会である咲耶会の協力や、大阪外国語大学の著名な卒業生である司馬遼太郎に関連する資料



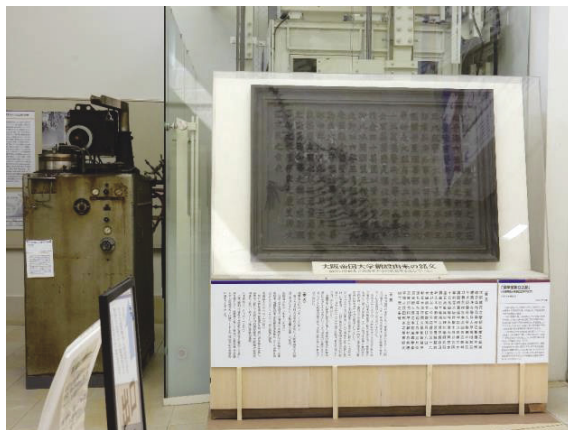


についての助言をいただき、それらを反映した企画の練り直しを急速に進めることとなった。

今回の展覧会は大阪大学創立 90 周年 / 大阪外国語大学創立 100 周年記念事業としての予算配分があったことと、豊中市からの共催も受けて、常設展示室の期間限定の展示換えも含めた規模の大きい展覧会となった。さらに複数の部局に協力を依頼する必要性や、外国語大学に関する資料調査と展示企画の立案を企画全体の進行と同時にすすめる必要があったことから、通常の展覧会開催では行わないような、博物館全教員による分担制をとった。展示資料ごとに担当を決めてキャプション・解説の執筆依頼や、資料借用並びに展示時の立ち合い、さらには配布資料の作成や関連イベントの準備作業を分担する体制を取り、展覧会実施のための博物館内の会議を重ねた。

そのようにして準備を進めていたが、この展覧会は新型コロナ感染拡大の影響を大きく受けることとなった。展示の最終段階を迎えたころに大阪府内の感染状況が非常に悪化したため、それを意識しながら感染防止対策に注意して資料搬入ならびに展示作業をすすめていた。しかしながらついには、4月23日(金)に再び緊急事態宣言が発出されて、博物館は展覧会予定初日の前日4月26日(月)から館全体を臨時休館することとなった。感染状況の推移をみながら館内で検討を進め、実際に開催に至ったのは6月3日(木)からで、当初は平日限定で開館し、6月26日より土曜開館も再開した。そのような状況下での開催だったので、観客の出足も悪く期間中の来館者は823名に留まった。ミュージアムレクチャーは当初よりオンライン開催としていたので予定通り開催できたが、豊中市制施行85周年記念事業として大学とまちづくりについて市民を交えた意見交換をするために対面での開催を予定していたシンポジウム「アートとサイエンス 大学とつくる街のすがた」は中止となった。

本展覧会は待兼山修学館全体を展覧会場とみなし、全体を5章構成として、第I章から第IV章までは、常設展示を活用したものにした。第I章は大阪大学のモットーのフレーズでもある「世界に伸びる」をテーマとして、一階の北エリア「世界に羽ばたく研究者/コンピューターの黎明期」の常設展示を活用し、真島利行のウルシオール標本を限定展示した。また最初の展示室に至る展示ロビーには、大阪大学創設時に唯一新設された理学部を記念する「理学部創立之記」と理学部中之島時代に日本で二番目に導入されたHe液化機(低温センター所蔵)を展示した。



第II章は「地域の想い、つなげる、育む」として、常設展示の2階南エリア「大阪大学の系譜」を活用して展示を構成した。常設展示では懐徳堂・適塾を複製資料により紹介しているが、この展覧会期間限定で文学研究科、図書館に所蔵されている「懐徳堂幅」「中井竹山肖像」「重建懐徳堂瓦」などの懐徳堂関連資料、適塾記念センターが保管している「緒方洪庵肖像」「除痘館記録」「塾生名簿」などの実物資料を前期後期に分けて展示した。また常設展示の大阪大学の年表を大幅に拡張し、大阪外国語大学の歴史を追加した。またコロナ感染対策でハンズオン展示を中止していたのをデジタル画像によるスライドショーに変更した。



第 III 章は「世界へのまなざし」のテーマで、2階北エリアの「見る科学」を拡張する展示とした。蛋白質研究所所蔵のチトクロムcバルサモデルを期間限定で展示し、化学遺産に認定されているタンパク質立体構造模型を一堂に並べた。また、展示室に隣接する収蔵室の扉を開けて公開し、通常展示できない大型装置である電子線回折装置や、国産第一号電子顕微鏡の関連資料が収蔵されている様子を見られるようにした。

第 IV 章では大阪大学のモットーの一つである「地域に生きる」をテーマとして、3階北エリアの「待兼山に学ぶ」の常設展示を活用した。マチカネワニが意匠化されたマンホール



を常設展示されているマチカネワニ化石の付近で展示し、マチカネワニが発掘された地元、豊中市でキャラクタとして愛されていることをパネル展示した。また3階階段に、北大阪における画期的なイベントであった1970年の日本万国博覧会の遺産であるせんい館のロビー人形を地域の記憶として展示した。

第 V 章が本展覧会の中心となる期間限定の展示で、「学都大阪の礎」というテーマのもとに3階多目的室に展開した。そこでは大阪大学と大阪外国語大学（大阪大学外国語学部）を並列して扱うこととし、約一世紀の歩みを俯瞰的に展示するとともに、保管されてきた資料の解説を通じて研究の面白さをアピールすることを目指した。二つの大学に共通する大阪大学の特徴として、1) 大阪らしさとしての実学的、進取の精神、2) 市民の貢献（寄付・寄贈による設立）を念頭に置き、大阪の歴史と大学史を絡めて4セクションに構成した。

最初のセクションは「大阪大学・大阪外国語大学の貴重資料」として、単品でも展示会の中心になりえる貴重資料を陳列し、展示の導入部とした。大阪大学の源流である適塾から「扶氏遺戒之略」（前期）と「洪庵の薬箱」（後期、ともに適塾記念センター所蔵）、世界遺産に指定されている古市古墳群の一角にあり文学研究科による発掘調査で大量の鉄製武具が発掘されて注目された野中古墳出土の鉄製甲冑（重要文化財、文学研究科所蔵、通期展示）、大阪外国語大学で研究資料として大切に受け継がれてきた石濱文庫から懐徳堂由来の貴重図書である「夢の代」と「出定後語」、また大学で研究資料として収集された貴重な仏教經典である出曜経断簡（博物



館所蔵、通期）とチベット大蔵経（外国学図書館所蔵）を展示した。

第2、第3セクションは広い空間を、大阪大学、大阪外国語大学（外国語学部）のそれぞれのスクールカラーであるスカイブルー、えんじをイメージとした背景で分割して展示を展開した。第2セクションの「大阪大学の一世紀」では大阪大学アーカイブズに所蔵される文書や写真データなどを利用して、大阪大学の前身校である大阪医科大学、大阪工業大学、旧制大阪高等学校、旧制浪速高等学校などの歩みを紹介し、さらに初代総長の長岡半太郎が設立当時に功のあった事務官に与えた扁額を展示した。また創立間もない理学部の代表的な研究者である、菊池正史の研究装置や、日本初のノーベル賞受賞となった湯川秀樹の学位論文（大阪大学図書館所蔵）を展示した。また16の大学院と2つの学部（外国語学部、医学部保健学科）、6つの附置研究所（産研、蛋白研、微研、社研、接合研、レーザー研）の紹介パネルを立体的に展示し、その他の様々な学内組織もパネルで紹介して、大阪大学の現在の姿を示した。章の最後には大阪大学の前身校が活動していた当時の大阪市内の地図を展示し、当時を想起できるようにした。







第3セクションは「大阪外国語大学の一世紀」として、1921年の大阪外国語学校の創立から、戦後の大阪外国語大学としての再出発とユニークな教育活動、そして大阪大学との統合に至る歴史をキャンパスの変遷を織り交ぜて紹介した。当初の設立資金を提供した篤志家の林蝶子の記念銘板と肖像写真（外国語学部所蔵）や、外国学図書館に保管されてきた資料、大阪大学アーカイブズに残る公式文書、大阪外国語学校時代から現在まで活動が続く同窓会である咲耶会に保管されている資料を展示した。さらに2021年の春に誕生した外国語学部の箕面新キャンパスの写真をセミナー室において映写した。



第4セクションは「現在から未来へ」というテーマで、各部局から推薦のあった資料により、大阪大学が積み重ねてきた研究の一端を紹介した。主な展示資料はマルチターン質量分析装置、月の砂・月由来の隕石（理学研究科）、会沢正志斎書簡（文学研究科）、パルス強磁場マグネット（先端強磁場科学研究センター）、寄生虫標本（微生物病研究所）、ヒューマノイドロボット（先導的学際研究機構）などで、大阪大学の幅広い研究とその面白さを伝えることを目指した。





以上のような展示によって、大阪大学そして大阪外国語大学が地域によって支えられ、教育や研究によって地域に貢献しようと発展してきた姿を、地域市民ならびに学生をはじめとする阪大関係者や同窓生に発信することを目指した展覧会であったが、コロナ感染拡大の影響を受けてその役割を十分に果たしきれなかったことは残念だった。しかしながら、多数部局との連携や、常設展示会場の期間限定の展示替え、Webinarによるミュージアムレクチャーなど、これまでになかった展示の取り組みを多く取り入れることができた点では有意義な展覧会だったと思う。

## 2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館 第15回特別展

# 乙女文楽

—開花から現在まで—

## 概 要

大阪大学総合学術博物館 第15回特別展「乙女文楽-開花から現在まで-」を2021年10月18日(月)から12月18日(土)の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。乙女文楽とは昭和初期に大阪で誕生した女性一人遣いの人形浄瑠璃の総称で、現在でも各地でその芸は継承されている。本展覧会は30年以上前に大阪大学に寄贈された乙女文楽関係資料を中心に乙女文楽について再調査・研究を実施し、その成果を公開する場として開催された。大阪大学所蔵の衣裳類を中心に昭和初期から現在に至る乙女文楽の歴史とその特徴的な芸のあり方を紹介する展示を行った。本展覧会の期間中の来場者は、2,080名と好評であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 第15回特別展

テーマ：「乙女文楽-開花から現在まで-」

期 間：2021年10月18日(月)～2021年12月18日(土)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院文学研究科

入館者数：2,080名

#### <イベント>

10月30日(土) 「吉田光栄 乙女文楽～実演と解説～」

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

実演演目「艷容女舞衣」酒屋

「生写朝顔話」宿屋

実演：吉田 光栄(乙女文楽座)

来場者数：44名

11月20日(土) 「桐竹繭紗也 乙女文楽『輝夜姫(竹取物語)』」

会場：大阪大学会館1階 21世紀懐徳堂スタジオ

出演：桐竹 繭紗也(人形) 井上 真実(篠笛)

来場者数：65名

12月18日(土) 「ひとみ座乙女文楽～実演と解説～」

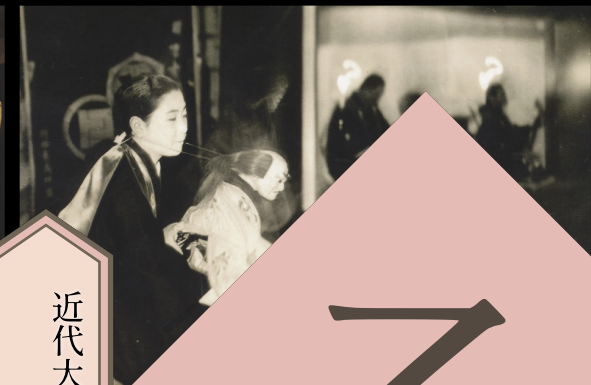
会場：大阪大学会館1階 21世紀懐徳堂スタジオ

実演演目「本朝廿四孝」(奥庭狐火の段)

実演：亀田 直美 他(ひとみ座乙女文楽)

来場者数：58名

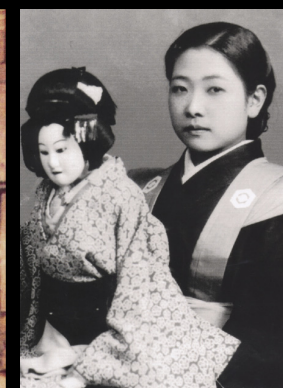
大阪大学総合学術博物館第15回特別展



近代大阪に生まれた  
女性一人遣いの人形浄瑠璃

# 乙女文楽

— 開花から現在まで —



2021年10月18日(月) — 12月18日(土)

11:00 ~ 16:00 (入館は15:30まで) 日曜・祝日は休館

会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

入館料: 無料

主催/大阪大学総合学術博物館

共催/大阪大学大学院文学研究科

# 乙女文楽

—開花から現在まで—

～近代大阪に生まれた女性一人遣いの人形浄瑠璃～

乙女文楽とは昭和初期に大阪で誕生した一人遣いの人形浄瑠璃の総称です。当時流行した少女歌劇などを手本に人形遣いは主に十代の少女が担い、床の浄瑠璃は素人義太夫や女流義太夫によって担われたとされています。人形は三人遣いの文楽人形をもとにした大振りのものを一人で遣えるよう改造されていました。昭和戦前期の大阪を中心に活動がなされましたが、全国に伝えられ、特に神奈川県などでは現在でも活発に乙女文楽の伝承活動がなされています。

戦後の大阪には、戦前の系譜を引き継ぎながら、活動を続けていた乙女文楽の一座がいくつかありましたが、昭和40年代以降、大阪を中心とした活動は下火となり、解散する一座も現われました。当時解散した乙女文楽の一座の人形や衣装・道具類は各方面に譲渡されていきましたが、後にそうした衣装類の一部が大阪大学に寄贈されることになりました。本展覧会では大阪大学が所蔵する乙女文楽の衣装を中心に乙女文楽の歴史と現在を紹介します。

## 展示内容

- 1、人形浄瑠璃の近代
- 2、乙女文楽の歴史
- 3、現代の乙女文楽

## 主な展示品

- ・「大阪娘文楽座」衣装・人形胴・肩板・道具類（道具幕・小道具等）
- ・乙女文楽首
- ・三人遣い文楽人形
- ・現代の乙女文楽人形



ラジウム温泉チラシ



乙女文楽衣装



乙女文楽衣装



乙女文楽人形胴



乙女文楽小道具

## 展覧会関連イベント

乙女文楽実演付解説イベント実施予定!!  
現代に乙女文楽を継承するいくつかの個人・団体の演者の方々に、実演を交えながら乙女文楽について解説いただくイベントを複数回開催予定です。

日程など詳細は大阪大学総合学術博物館ホームページにて随時ご案内します。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>

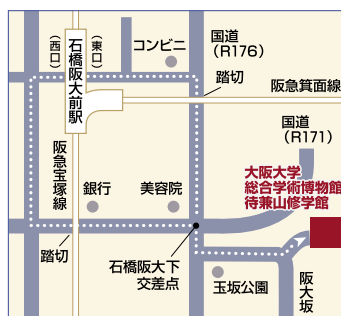
## アクセス

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-20

TEL: 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



阪急宝塚線  
「石橋阪大前」駅より徒歩 10分  
大阪モノレール  
「柴原阪大前」駅より徒歩 20分  
※公共交通機関をご利用ください。

### ◆ご来館のみなさまへ◆

新型コロナウイルス感染症予防のため会期・イベント等を変更・中止する場合があります。現在当館では入場人数の制限や開館時間の短縮、来館者のみなさまへのマスクの着用や健康チェックシートのご記入等をお願いしております。来館やイベント申込にあたっては、事前にホームページでご確認ください。

本展覧会は、JSPS 科研費 16K02349, 19K00235 の助成を受けたものです。



## 報 告

### 大阪大学総合学術博物館 第15回特別展 「乙女文楽 - 開花から現在まで -」

大阪大学総合学術博物館  
助教 横田 洋

大阪大学総合学術博物館では、2021年10月18日より12月18日の2ヶ月間の会期で、「乙女文楽—開花から現在まで」と題した展覧会を開催した。

乙女文楽とは大正期に考案され、昭和初期の大阪で花開いた女性人形遣いによる一人遣いの人形浄瑠璃の総称で、現在でも上演活動が続ける個人や団体が一定数いる芸能の一ジャンルである。人形浄瑠璃のひとつであるが、人形遣いが女性であること、一人遣いの操法が独特のもの

であることが他にはない魅力で、昭和戦前期は小規模ではあるものの興行物として人気があり、現在でもその魅力を伝える伝承活動が盛んになされている。乙女文楽という名称は昭和初期から使われていた名称で、草創期には人形遣いの多くが十代の少女たちであったことに由来している。

乙女文楽の最盛期は昭和戦前期であるが、戦後も活動を続けた「大阪娘文楽座」という一座があった。この一座は1960年代に解散したが、その際、人形や衣装道具類は芸能史研究者の吉永孝雄氏の手に渡り、さらに吉永氏の手からさまざまな方面へ譲渡された。そのうち人形首の多くは文楽関係者などのもとへ渡ったと考えられているが、衣裳道具類の大部分は1990年ごろに当時の信多純一文学部教授を介して吉永氏から大阪大学へと寄贈された。



展覧会 第1室「人形浄瑠璃の近代」



博物館 1F エントランス

寄贈のあった時点で簡単な資料リストは作成されたが、当時の大阪大学では歴史的資料を活用する施設や制度に乏しく、その後、長期間文学部の倉庫に死蔵された形となった。乙女文楽関係の資料の存在すら忘れられた状態が続いたが、2015年頃から改めて「大阪娘文楽



展覧会 第2室「乙女文楽の歴史」

座」の資料を中心に乙女文楽全般の調査を行う活動を開始した。関連する研究者を集めた研究会を組織し、2016年からは科学研究費助成金(16K02349、19K00235)を獲得し、衣裳の調査、関係者への聞き取り調査、阪大所蔵以外の資料の調査などを総合的に進めた。今回、展示の中心となったのは、再調査を行った阪大所蔵の衣裳道具類で、展覧会は約7年にわたる

乙女文楽研究会の研究プロジェクトの研究成果を公表する場でもあった。

展覧会を開催するにあたり、研究会の活動の中でもお世話になった現役で活動を続ける乙女文楽の組織や個人の方々や文楽の人形遣いの方の協力を得ることができた。阪大所蔵の資料には人形首がなく、人形そのものの展示が不可能であったが、以上の方々の協力で拵え済みの人形を出品いただき計7点展示することが可能となり、また過去に乙女文楽に使用された人形首も3点展示することができた。そのうちの2点は文楽の人形遣いの方から出品いただいた首で、展覧会に際して行われた調査において、この2点が「大阪娘文楽座」解散後に吉永孝雄氏からその人形遣いの方に譲渡された首と確認された。実に30年以上ぶりに「大阪娘文楽座」の衣裳と首が再会する機会を設けることができた。

その他、研究プロジェクトを通じて、さまざまな関係者、研究者のみなさんの協力を得ることができた。その中で、これまで知られることのなかった興行番付や関係者の書簡などの貴重な一次資料を調査することができ、また今回それらを展示することもできた。

乙女文楽は現在でも伝承されているが、芸能史研究者の間でもよく知られたとはいえないもので、ここから展覧会の紹介とともに乙女文楽そのものについても解説しておきたい。

展覧会は大きく3つのゾーンに分けられ概ね歴史の流れに沿って乙女文楽を紹介する展示とした。第1室「人形浄瑠璃の近代」では大正から昭和初期の人形浄瑠璃の歴史を概観した。大正時代後半は御霊文楽座の焼失などの影響もあり、人形浄瑠璃界の最高峰である文楽は経営が傾き始めていた時期であった。そんな中でも大阪の商家の主人や企業経営者などのいわゆる旦那衆のアマチュアの活動である素人義太夫の人気は継続していた。素人義太夫の中には自身の語りに人形を合わせたいと考えるものがおり、彼らの中で一人遣いの人形機構の開発を試みる者



展覧会 第2室「乙女文楽の歴史」





展覧会 第2室「乙女文楽の歴史」

展覧会は導入部として乙女文楽界最大のスターといってもよい吉田光子が使用した『艶容女舞衣』のお園の人形の展示から始まるが、第1室ではまず文楽を中心とした近代の人形浄瑠璃の歴史を紹介し、また文楽式の三人遣いの人形操法について紹介した。吉田光子のお園と合わせて、現在文楽で使用される三人遣いのお園の人形も展示し、三人遣いの操法と人形の機構をわかりやすく説明するため、衣裳を着せていない文楽の裸人形も展示された。

第2室「乙女文楽の歴史」が阪大所蔵の衣裳類を展示した今回の展覧会のメインとなるコーナーで衣裳を中心としながら、様々な歴史資料を展示し、乙女文楽の誕生から最盛期の歴史、さらには一人遣いの機構や操法について紹介した。

大阪で歯ブラシ製造業を営んでいた林二輝という素人義太夫としても活躍した人物が「腕金式」とよばれる一人遣い人形操法を開発し、少女たちが人形を遣い、床の義太夫は素人義太夫が担当するという形の興行を始めた。林の一座は新世界ラヂウム温泉を本拠に興行を続けるが、そこから独立したのが井上政次郎の一座で井上の娘の吉田光子が一座の中心となって大阪を中心に各地を巡業した。井上は文楽の人形遣い桐竹門造に指導を仰いで活動を始めたが、その門造も独立し新たな一座を旗揚げした。門造は林や井上の「腕金式」とは異なる独自の「胴金式」を開発し、全国を巡業した。文楽から独立して活動を行っていた新義座と巡業を共にしたこともあり、三つの系統の中では最も本格的な興行を行った集団でもあった。この一座は桐竹政子や梅子といった人形遣いが中心となっていたが、後に神奈川県で生涯にわたって乙女文楽の伝承活動を行った桐竹智恵子も参加していた。

第2室で展示した衣裳、道具類の多くは阪大所蔵の「大阪娘文楽座」のものであ

が現れた。一方で、経済的に厳しい状況に陥っていた文楽の演者たちの中でも、素人の稽古を行うことで収入を得ていた太夫・三味線と異なり、人形遣いはより困難な状況に陥っていた。人形遣いの中には新しい一人遣いの操法の開発と、その人形操法の指導に関わることで苦境を脱しようとした者もいた。素人義太夫と文楽の人形遣い、両者の思惑が一致したところで企図されたのが乙女文楽であった。



展覧会 第3室「現代の乙女文楽」



乙女文楽座『生写朝顔話』

るが、この一座が所持していた衣装道具類は「腕金式」「胴金式」の違いに関係なく戦前活動していた一座から受け継いだものも多く、展示資料にも戦前に使用されていた衣裳や道具類が多数含まれている。また天井の低い当館の展示室ではあるが、乙女文楽で使用された道具幕（舞台後方に張り大道具の代わりとする幕）3点を壁

面一杯に展示した。また阪大所蔵資料だけでなく、研究会として収集した資料、関係者から借用した人形やその機構類、チラシや番付、関係者の書簡なども多数展示でき、戦前の最盛期から戦後にかけての乙女文楽の実態とその全体像に迫る展示となったと考えている。

戦時中一時断絶した形となったが、戦後も活動を続ける劇団もあった。戦前は「腕金式」「胴金式」でそれぞれ異なる系統の集団を組織したが、戦後の大阪では操法などが混在した一座が活動を続ける形となった。戦後特に乙女文楽の活動が活発になったのは神奈川県で、大阪から福岡、さらに神奈川県に移住した一座によって興行を行われ、興行物としての活動が困難になった後も桐竹智恵子を中心に地域の芸能として公演・伝承活動が続けられた。

大阪では平成に入ってから吉田光子と仏教芸能研究者の土井順一が中心となって「乙女文楽座」という一座を旗揚げし、腕金式の人形操法を伝承する活動を始めた。この「乙女文楽座」は現在でも公演伝承活動を継続している。

桐竹智恵子が生涯伝承活動を続けた神奈川では地域の高校のクラブ活動などの他、『ひょっこりひょうたん島』などで知られるプロの人形劇団である「ひとみ座」が1967年以降、桐竹智恵子の指導の元で乙女文楽の活動を始める。「ひとみ座乙女文楽」として現在も精力的な活動を続け、既に50年以上の歴史を刻んでいる。

第3室では「現在の乙女文楽」として、戦前以来の伝統を引き継ぎ、現在も精力的に活動を続ける個人や団体を紹介した。特に上記の2団体と桐竹繭紗也氏の協力を得て、現在使用されている人形や装具類などを中心に展示した。「ひとみ座乙女文楽」からは『奥州安達原』の袖萩



桐竹繭紗也『輝夜姫（竹取物語）』



ひとみ座乙女文楽『本朝廿四孝』

と兼仗の人形2点と現在使用されている胴金式の人形装具一式、さらにひとみ座の公演資料を、「乙女文楽座」からは『傾城阿波鳴門』のお弓とおつるの人形2点と腕金式の人形装具一式その他公演資料などをそれぞれ出品いただいた。桐竹繭紗也氏は腕金式操法を吉田光子からと胴金式操法を桐竹政子からそれぞれ学び、独自の肩金式という人形操法を開発した人形遣いで、今回その肩金式の機構も出品いただくことができた。3章では乙女文楽のビデオ映像を紹介したが、この映像も上記の方々から提供をうけたものであった。一世紀にわたる歴史と伝統を引き継ぎながら、現代も進化を続ける生きた芸能であることを展覧会全体を通して示すことができたと考えている。

また「乙女文楽座」、「ひとみ座乙女文楽」、桐竹繭紗也氏の三者の方々の協力を得て期間中に乙女文楽の実演と解説イベントを開催することができた。10月30日に「乙女文楽座」の『艶容女舞衣』と『生写朝顔話』を上演し、11月20日には桐竹繭紗也氏の『輝夜姫（竹取物語）』を計2回上演、展覧会最終日の12月18日には神奈川県川崎を本拠とする「ひとみ座乙女文楽」に来阪いただき『本朝廿四孝』狐火の段を計2回上演した。新型コロナ感染症の対策として観客数を制限したため、各日とも2回ずつ合計で計6回の実演イベントを行った。事前申込制としたが、すべて早々に定員となり応募を締め切る形となった。感染症対策による人数制限がなければ、より大規模な会場でより多くの来場希望に応えることもできたが、それは叶わなかった。それぞれの回では腕金式、胴金式、肩金式などの人形操法の解説も交えたイベントが行われた。人形浄瑠璃という舞台芸能、中でも特殊な人形操法をめぐるテーマの展示であったため、実際に人形を操り、作品を上演するイベントを開催することで、来場者の理解を促進させるという点においても意義があったものとする。

展覧会、関連イベントともに感染症対策の厳戒態勢の元での開催となったが、多くの来場者、関係者の協力の元、大きなトラブルなどなく無事会期を終えることができた。来場者、関係者のみなさまへ深く感謝申し上げます。





### 3. 展覧会報告Ⅲ

大阪大学総合学術博物館特別展

## 身体イメージの創造

感染症時代に考える伝承・医療・アート

## 概 要

大阪大学総合学術博物館 展覧会「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」を2022年1月17日（月）から2月12日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。この展覧会は、“身体イメージ”をテーマに重ねてきた国際研究のアウトリーチ活動の1つとして実施した。人は太古より身体に強い関心を抱き、さまざまな絵や図像を創ることでイメージを膨らませてきた。この展覧会では国際日本文化研究センターの所蔵資料を中心に「疫病と医学」「身体を把握する」「身体への関心」「現代と未来の身体」という4つのテーマに分けて、伝承・医療・アートなど幅広い分野にかかわるさまざまな身体イメージを辿り、現代の感染症の時代に、未来へ向けて生きるヒントを探っていくことを志向した。本展覧会は、国際日本文化研究センターと本学博物館が共同で実施した展覧会となった。本展覧会の期間中の来場者は、521名と好評であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 展覧会

テーマ：「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」

期 間：2022年1月17日（月）～2月12日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、国際日本文化研究センター

入館者数：521名

# Constructing Images of the Body

Considering Folklore,  
Medical Practice,  
and Art in a Pandemic Era

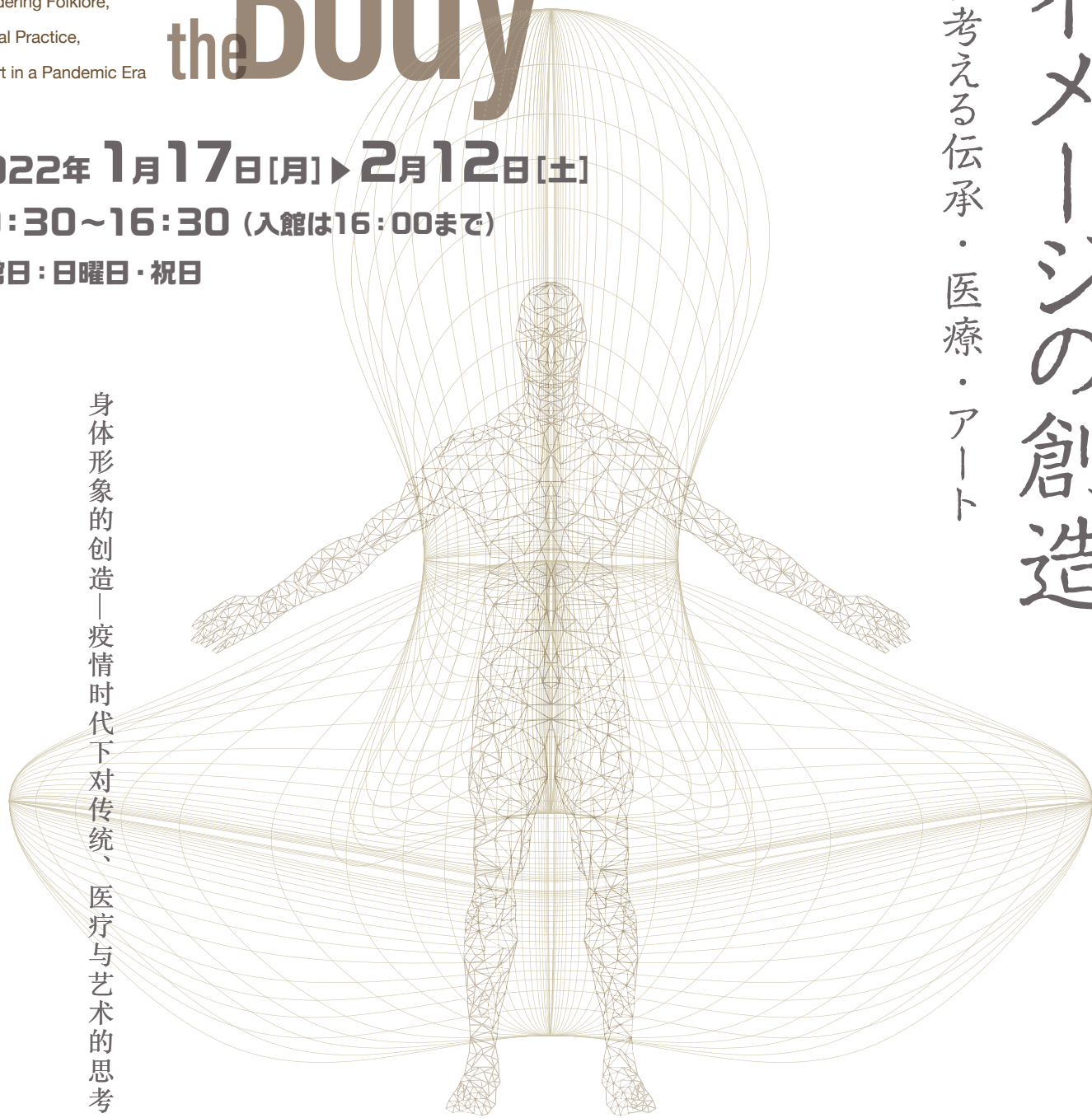
2022年1月17日[月] ▶ 2月12日[土]

10:30~16:30 (入館は16:00まで)

休館日: 日曜日・祝日

感染症時代に考える伝承・医療・アート  
身体イメージの創造

身体形象的創造—疫情时代下对传统、医疗与艺术的思考



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館  
The Museum of Osaka University

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-20

Tel: 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

- 阪急宝塚線「石橋阪大前駅」より徒歩約10分
  - 大阪モノレール「茶原阪大前駅」より徒歩約20分
- ※公共の交通機関をご利用ください。

入館料  
無料  
Admission Free



大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構

主催: 大阪大学総合学術博物館 / 国際日本文化研究センター

本展覧会は、国際日本文化研究センター共同研究会「身体イメージの想像と展開—医療・美術・民間信仰の狭間で」(安井真奈美、ローレンス・マルソー代表 2018-2021年度)の成果をまとめて、人間文化研究機構「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」の一環として実施する。



# 身体イメージの創造

感染症時代に考える伝承・医療・アート

身体形象的創造——疫情时代下对传统、医疗与艺术的思考

# Constructing Images of the Body

Considering Folklore, Medical Practice, and Art in a Pandemic Era

人は太古より身体に強い関心を抱き、さまざまな絵や図像を創ることでイメージを膨らませてきました。この展覧会では国際日本文化研究センターの所蔵資料を中心に「疫病と医学」「身体を把握する」「身体への関心」「現代と未来の身体」という4つのテーマに分けて、伝承・医療・アートなど幅広い分野にかかわるさまざまな身体イメージを辿り、現代の感染症の時代に、未来へ向けて生きるヒントを探っていきます。

Since ancient times people have been fascinated with the human body, and images of the body have continued to grow through the production of a variety of drawings and other icons. Consisting mainly of materials in the collections of the International Center for Japanese Studies, this exhibition is divided into four thematic areas: "Epidemics and Medicine," "Getting One's Head around the Body," "A Fascination with the Body," and "Bodies Present and Future," and features a range of images across the fields of popular religion, medicine, and art, with an aim to seek out possibilities for living in the current pandemic era and into the future.

自远古时代，人类就对身体有着密切的关注。人们创造了极为丰富的绘画、图像，使身体的形象愈渐饱满。本次展览，以国际日本文化研究中心的馆藏为主要展品，共分为四大主题板块：“疫病与医学”“理解身体”“关注身体”“身体·当代与未来”。展览内容将横跨传统、医学、艺术等诸多领域，回溯形形色色的身体形象，以及在疫情蔓延的当下，探寻对未来生存的启示。



問い合わせ先  
**大阪大学総合学術博物館**  
 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20  
 Tel:06-6850-6284  
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

好奇心から生まれる創造

## 《展示構成》

### Room 1 疫病と医学

感染症と現代医療	「COVID-19 大阪大学のワクチン開発」
疫病の流行	「種痘医免許証」
疫病除けのまじない	「はしかまじないおしえ宝」
種痘	ジェンナー「牛痘の原因および作用に関する研究」
疫病的予防	「虎列刺病豫防法図解」

### Room 2 身体を把握する

身体内部のつくり	「五臓六腑図」
顔をよむ	「観相」
身体をよむ	「鍼灸人形」
解剖書を模写する	「和蘭全軀内外分合図」

エドワード・ジェンナー「牛痘の原因および作用に関する研究」(1798年刊)  
 (国際日本文化研究センター(野間文庫)所蔵)



### Room 3 身体への関心

身体各部位の表現	「訓蒙図彙」
身体部位の誇張	「しん板ばけ物尽」
身体の拡張	「耳鏡能書引札」
あの世の身体	「地獄絵」
知識を広める	「絵入日用女重宝記」

「しん板ばけ物尽」(国際日本文化研究センター所蔵)



### Room 4 現代と未来の身体

医療の“眼”の拡張—胎児の可視化	「超音波診断装置」
医療の“眼”の拡張—症状を数値化する	「認知症画像診断サンプル」
性差を問い直す	「29種類の性別記号」
認識の拡張—認知の可能性	「パレイドリア」
抵抗としての拡張—感染症と現代アート	「資料版：隔離濃厚接触室」
身体の拡張—ロボット(医療用)	「手術支援ロボット「ダビンチ(da Vinci)」
ヒューマン-ロボット-インタラクションと未来の身体	



(左) 「はしかまじないおしえ宝」  
 (右) 「虎列刺病豫防法図解」  
 (上記2点 国際日本文化研究センター(宗田文庫)所蔵)

## Access

《アクセスマップ》

- 阪急宝塚線「石橋阪大前駅」より徒歩約10分
- 大阪モノレール「柴原阪大前駅」より徒歩約20分

※ 公共の交通機関をご利用ください。



## 報 告

大阪大学総合学術博物館 展覧会

「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」

大阪大学総合学術博物館

講師 伊藤 謙

大阪大学総合学術博物館 展覧会

テーマ：「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」

期 間：2022年1月17日（月）～2月12日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、国際日本文化研究センター

入館者数：521名

### 【開催趣旨】

人は太古より身体に強い関心を抱き、さまざまな絵や図像を創ることでイメージを膨らませてきました。この展覧会では国際日本文化研究センターの所蔵資料を中心に「疫病と医学」「身体を把握する」「身体への関心」「現代と未来の身体」という4つのテーマに分けて、伝承・医療・アートなど幅広い分野にかかわるさまざまな身体イメージを辿り、現代の感染症の時代に、未来へ向けて生きるヒントを探っていきます。

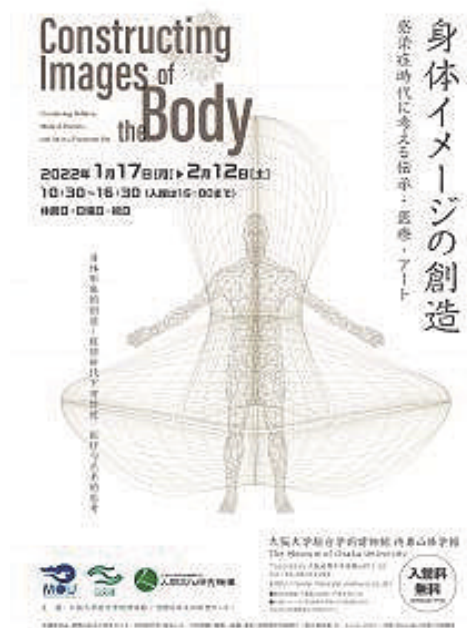


図1. 本展のポスター 敢えて写真など使わず“普遍的な身体”をイメージしたビジュアルデザインとした

## 【メインの展示と詳細】

会場を4つの展示ゾーンに分けて展覧会を構成した。まず、ゾーン1「疫病と医療」では、人々が感染症に対処してきた歴史を、麻疹除けの呪いや牛痘種痘の実践などから読み解いていくものとした。大阪大学におけるコロナ流行下で行われた研究成果の紹介も行った。ゾーン2「身体を把握する」では、東洋医学における身体の捉え方を、観相や鍼灸銅人形を紹介する中で明らかにし、また西洋の解剖学に基づいた身体の描写が具体的に与えた影響を示そうと試みた。ゾーン3「身体への関心」では、近世の文芸に登場する遊女の身体や、錦絵に描かれた妊婦や、胎児の成長の姿などを紹介した。ゾーン4「現代と未来の身体」では、医療用ロボットや、認知症を脳の画像として把握したり胎児の姿を超音波診断装置で捉えたり、現代医療の中で可視化・数値化される身体に注目した。またコロナ流行下に萌出した現代アートの作品として、布施琳太郎氏の「資料版：隔離式濃厚接触室」を展示した。4つのゾーンを通じて、まさに人々が身体を様々なかたちで表現し、創り、また変容させたり応用してきた、そうした歩みを感じ取ることができるよう展示を工夫した。特にタイトルにもある、「身体イメージ」を各展示に意識した展覧会を企画した。

下記にゾーン毎の展示の特徴と代表的展示資料について紹介していく。

**ゾーン1「疫病と医療」**：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、現在も世界中で感染者を出し続け、今回のコロナ禍は100年に一度のパンデミックとも言われる。しかし、人類と疫病の歴史からすれば、真に驚くべきは、新型コロナウイルスの出現それ自体ではなく、むしろ疫病の広範囲にわたる流行が、この100年間、抑えられていた事実の方だろう。古来、人類はつねに疫病に翻弄されてきた。日本の歴史に限っても、疫病のなかった時代は一度もない。そして、大阪大学の精神的源流とされる適塾の緒方洪庵（1810-1863）はコレラ流行対策をいち早く世に広め感染拡大を防いだ。大阪大学では1934（昭和9）年に微生物病研究所が設置されるなど、外来伝染病を征圧することを目的とする研究が長年にわたり行われてきた。新型コロナウイルスに対してもさまざまな研究がなされている。基礎研究のみに留まらず、ワクチン開発をはじめ、さまざまな対策の研究に対する社会実装が模索されている。本ゾーンではそれらの一端を紹介した。

**ゾーン1の代表的資料**：天然痘の予防に種痘法が有効であることを提唱したエドワード・ジェンナーの著書『牛痘の原因および作用に関する研究』（1798年刊）を展示した。展示本は著者による献呈本でジェンナーの直筆サインがあるほか、銅版画の挿絵は色彩が美しい点にも注目して頂きたい。また大阪大学のコロナ流行下での研究成果の1つとして、大阪大学発ベンチャー企業である株式会社ビズジーンによって開発された独自の核酸クロマト法により、ウイルスを15分以内に検出する「簡易検査キット」を紹介した。

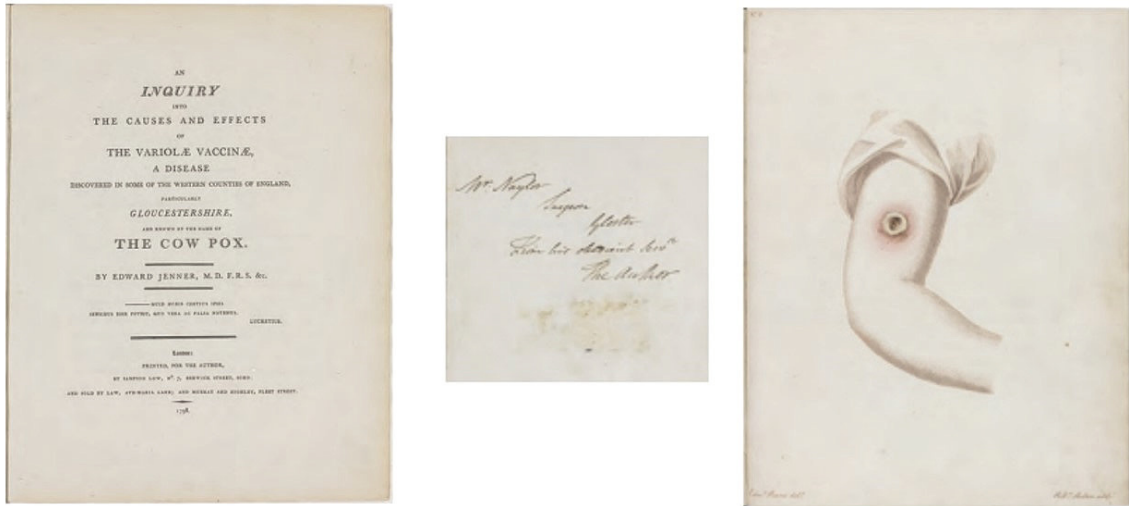


図2. エドワード・ジェンナー著『牛痘の原因および作用に関する研究』（1798年刊）  
国際日本文化研究センター（野間文庫）所蔵、中央はジェンナーの直筆のサイン



図3. 新型コロナウイルス：使い切りの簡易検査キット  
（阪大発ベンチャー・株式会社ビズジーン製）

**ゾーン2「身体を把握する」**：さまざまな病がはやり、その対処法を考えるために、身体について把握することは必須であった。世界は一つの大宇宙とみなされ、身体もまた、一つのまとまりをもった小宇宙として捉えられ、古代から中国より伝わった東洋医学は、心身を一体として、気と血の流れを重視し、陰陽五行説に基づく体系と実践を生み出した。顔や姿勢などから人となりを把握する観相や、気と血の流れをよくして身体のバランスを整える鍼灸などが広まった。江戸時代、身体のしくみは経脈やツボ、五臓六腑説によって理解されていたが、ヨーロッパの医学書がオランダ語を通してもたらされると、解剖に基づく知識に改められた。杉田玄白らが解剖書の翻訳に取りかかり『解体新書』を世に出したのは1774（安永3）年である。一般の人々にも解剖書や医学書が伝わっていくのに時間はかからなかった。新たな西洋知識を取り入れ、18世紀後期には、身体を素材にした多様な浮世絵などが次々と描かれるようになった。

**ゾーン2の代表的資料**：ドイツ人レメリンによる解剖書『小宇宙鑑』の翻訳書として、『解体新書』より2年早い1772年に出された『和蘭全躰内外分合図』を展示した。身体の扉を開くと、紙片で造られた臓器が出てくる精巧な仕掛けになっている。解剖図という点では展示しているゴヴァルト・ビドロー『人体解剖図、105図』（1685年刊）も圧巻である。



本店では、胎児と胎盤の図が掲載されているページを展示しているが、非常に写実的でリアルなオランダ絵画法を取り入れており美術画の観点からも興味深い。また江戸時代の女性の教訓書や明治時代に妊娠・育児の心得を示した指南書などの挿絵にもさまざまな形で胎児と胎盤の図についても展示した。なお本ゾーンに展示した、鍼灸銅人形は特筆すべきものである。一つは京都大学総合博物館所蔵のもので、京都帝国大学医学科時代の資料、もう一つは京都の漢方医師であった細野史郎氏が所蔵されていた資料であり、後者は本展覧会において初公開となった。

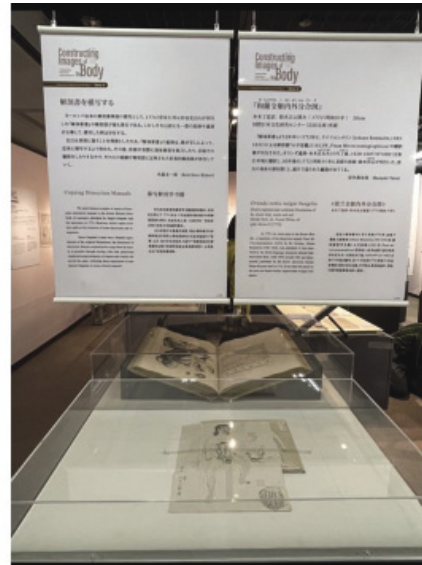


図4 ゾーン2の展示風景、左：鍼灸人形、右：和蘭全躰内外分合図および人体解剖図  
(伊藤謙撮影)

**ゾーン3「身体への関心」**：日本では、17世紀から木版による印刷技術が発達し、数多くの絵入り啓蒙書が生まれる。それらの啓蒙書では、〈身体〉の各部位を絵入りで説明している。また、広く読まれた女性のための啓蒙書では、妊娠中の胎児が月ごとに図説される。しかし人々は、〈見えない〉現象にも常に関心があり、それが見たくなる。その例として妖怪を描いた読み物などが挙げられる。妖怪は人を惹きつけ、同時に人を拒絶する。その原因の一つとして、妖怪の身体のある部分が、いつもの我々の身体とは異なる点が18世紀後半になると、ヨーロッパからの新知識によって、人間の身体に対する見方が変わる。臓器の役割に関心が高まり、また身体の役割を補う技術がないかという新たな疑問が生じる。しかし、科学技術の進展と裏腹に、〈あの世〉への関心は根強く残る。子どもにこの世で悪いことをすると地獄に落ちると教えるため、地獄絵などが作成され、大人にも絵解きが行われた。

**ゾーン3の代表的資料**：大衆文化の中で身体がいかに描かれていたか、江戸の絵入り本や錦絵などを例に、人々の豊かな想像力を感じて頂く展示構成とした。また、近世に描かれた妖怪の姿は、人間の身体を欠損させたり増幅させたりしながら創造されたものもある可能性があるため、歌川芳員画「しん板ばけ物尽」（1857年刊）などを展示した。



図5 歌川芳員画「しん板ばけ物尽」(1857年刊)、国際日本文化研究センター所蔵

**ゾーン4「現代と未来の身体」**：古来、人類は「身体拡張の夢」を抱いてきた。この夢は、時代によってさまざまな表現形態を成し、それがアート作品などの形で現在に残っている。その拡張の表現手法というものは、時代の技術の推移によって異なってくる。それは、ヨーロッパ・ルネサンス期の技術とアートの平行な進化を見れば自明だろう。この拡張は、かつてはアート作品のような物理的な形で結実し、現代においてはインターネット媒体、ロボティクス、AI、といったさまざまなデジタル技術基盤での結実に変容している。そして、その変容は今後も留まることはない。部屋4においては、そのような「身体拡張」について議論する。さまざまな身体拡張の事例—特に医療分野に焦点をあてる、拡張表現としてのアートと変容、近未来で主流となると予想されるバーチャル技術やロボットといった新たな身体拡張の可能性について紹介し、“現代と未来の身体”について考える。

**ゾーン4の代表的資料**：今回の展示に合わせて制作された、布施琳太郎氏の現代アート作品「資料版：隔離式濃厚接触室」が最も特筆すべきものであろう。新型コロナウイルスが蔓延しているこの時代に、改めて私たちの身体を考えればどういったことが見えてくるのかを、問いかける現代アート作品である。本企画は、現代アートの世界においても注目され、美術手帳（最初の緊急事態宣言下で発表されたインターネットアート、2022/02/19）の誌面においても紹介された。



図5 ゾーン4の展示風景、左：全体、右：布施琳太郎氏の現代アート作品「資料版：隔離式濃厚接触室」、伊藤謙撮影

### 【研究のアウトリーチ活動の場としての展覧会】

大学博物館の重要な機能の一つが『研究のアウトリーチの場』である。本展覧会においても、研究のアウトリーチの場としての活用を試みた。本展覧会は、国際日本文化研究センターの国際共同研究会「身体イメージの想像と展開—医療・美術・民間信仰の狭間で」の成果のアウトリーチの1つとして実施したものである。伊藤も、4か年に渡り、当研究会にて研究代表者の安井眞奈美教授、ローレンス・マルソー共同研究員などと共に研究を行ってきた。本展覧会が、大阪大学総合学術博物館だけでなく、さまざまな研究諸機関の研究のアウトリーチの場となったことは特筆すべき点と自負している。

### 【最後に】

本展覧会では、大学博物館であることを最大限生かし、①本学の研究の紹介・展示、②本学の研究紹介、③博物館以外の機関（国際日本文化研究センター）との密な連携、④教育の場としての大学博物館の活用、⑤外部予算（国際日本文化研究センターからの展示・図録作成費用の全てを獲得）を活用した展示、の5点について、ある一定の成果をだすことができたと自負している。また、本展覧会はコロナ流行下であったことから、五十里翔吾氏（当時、本学基礎工学研究科）の協力の下、仮想空間上での展示も同時に実施した。仮想空間上での展示シミュレーションを、実際の展示に先駆けて実施するなど（我が国の大学博物館では初の試み）、新たな試みを試行する場にもなった。

これらの実践には、周囲の協力者の助けが不可欠であった。永田靖館長以下、館員各位に心より感謝申し上げる次第である。また研究面と資金面の両面において、全面的にご協力頂いた国際日本文化研究センターにも深く感謝申し上げます。

なお本稿は本展覧会の図録（国際日本文化研究センター発行）を基に執筆した。

## 4. 展覧会報告Ⅳ

大阪大学総合学術博物館展覧会

# パブリックアートってなんだ？

－ 《タイムストーンズ 400》 と考える



## 概 要

大阪大学総合学術博物館 展覧会「パブリックアートってなんだ？ —《タイムストーンズ 400》と考える」を2022年1月18日（火）から2月5日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。大阪大学大学院文学研究科主催、大阪大学総合学術博物館共催のアートマネジメント人材育成プログラム「徴しの上を鳥が飛ぶⅢ—文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」の一環として開催した展覧会である。本プログラムの活動⑩「[受講生企画] アーツ・プラクシス」では、受講生による企画を募集し3件が採択されたが、そのひとつが「タイムストーンズ 400 再創造プロジェクト」である。このプロジェクトでは、「タイムストーンズ 400」を中心に、パブリックアートについて考える展覧会を開いた。本展覧会の期間中の来場者は、371名と好評であった。

---

大阪大学大学院文学研究科「徴しの上を鳥が飛ぶⅢ—文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」活動⑩「[受講生企画] アーツ・プラクシス」「タイムストーンズ 400 再創造プロジェクト」

テーマ「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ 400》と考える」

期 間：2022年1月18日（火）～2月5日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室、1階カフェ「坂」

主 催：大阪大学大学院文学研究科

共 催：大阪大学総合学術博物館

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

大阪中之島美術館

浄るりシアター

公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター）

豊中市都市活力部魅力文化創造課

兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）

公益財団法人箕面市メイプル文化財団

協 力：大阪アーツカウンシル

大阪市立東洋陶磁美術館

京都コンサートホール（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

入館者数：371名

<トークイベント>

1月22日（土）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

ゲスト：今井 祝雄（美術家・《タイムストーンズ 400》制作者）

聞く人：中原 薫（「徴しの上を鳥が飛ぶⅢ」受講生）

来場者数：10名

<シンポジウム「まちのアートは、誰のもの」>

2月5日（土）

会場：大阪大学会館1階 21世紀懐徳堂スタジオ

パネリスト：今井 祝雄（美術家・《タイムストーンズ 400》制作者）

橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館 教授）

加藤 瑞穂（大阪大学総合学術博物館 招へい准教授）

来場者数：29名

大阪大学大学院文学研究科「微しの上を鳥が飛ぶⅢ——文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラム」  
活動①「[受講生企画] アーツ・ブラクシス」 「《タイムストーンズ400再創造プロジェクト》 展覧会」

展覧会  
《タイムストーンズ400》と考える  
パブリックアート  
つてなんだ？

2022年

1月18日〔火〕

2月5日〔土〕

〔展覧会開館時間〕

10:30 ~ 16:30 (最終入館16:00) 日曜日・祝日休み

〔展覧会会場〕

大阪大学総合学術博物館 3階セミナー室&1階カフェ坂

〔入館料〕

入場無料・申込不要

※感染症対策等のため開館時間は変更の可能性があります



<https://timestones400.wixsite.com/recreation-project>

Printed by www.sunklarf.co.jp / Designed by www.satsuki.design

# 「パブリックアート」と聞いて何を 思い浮かべますか。

「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ 400》  
と考える」展覧会を開催します。

本展示は、新大阪駅前にある元具体美術協会会員・今井祝雄が  
制作した未完のモニュメント《タイムストーンズ 400》が  
どのように創られたのか、何故現在も未完のままなのか、  
不思議な経緯を通して、パブリックアートの現在を考える  
展覧会です。

大阪大学大学院文学研究科主催のアートプラクシス人材育成  
プログラム〔徴しの上を鳥が飛ぶⅢ〕受講生のプロジェクト  
メンバーが中心となり、制作者の協力を得て開催する展覧会で、  
作品はどのように創られたのか、現在も未完の作品となっ  
ている経緯を辿ることになるでしょう。アートとはなにか？  
パブリックアートとはなにか？をコロナ禍の時代に考える  
きっかけとなれば幸いです。

—《タイムストーンズ400》再創造プロジェクトメンバー  
石井靖彦、伊藤尚、坂本京子、菅原奈津、中原薫、松田栄子、  
山本佳誌枝

主催 大阪大学大学院文学研究科  
共催 大阪大学総合学術博物館  
連携 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール  
大阪中之島美術館  
淨るりシアター  
公益財団法人 吹田市文化振興事業団（メイシアター）  
豊中市都市活力部魅力文化創造課  
兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ビッコロシアター）  
公益財団法人 箕面市メイプル文化財団  
協力 大阪アーツカウンシル  
大阪市立東洋陶磁美術館  
京都コンサートホール  
（公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団）

令和3年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

徴しの上を鳥が飛ぶⅢ

<https://shirutori.org/>



## 展覧会日程

2022年1月18日〔火〕—2月5日〔土〕

10:30～16:30（最終入館 16:00）

日曜日・祝日休み

入場無料・申込不要

※感染症対策等のため開館時間は変更の可能性があります。

## 公開イベント

①トークイベント — 事前申込制※

〔日時〕2022年1月22日〔土〕14:00～16:00

13:00 受付開始

〔会場〕大阪大学総合学術博物館3階セミナー室  
（大阪府豊中市待兼山町1-20）

〔ゲスト〕今井祝雄

〔聞く人〕中原薫（徴しの上を鳥が飛ぶⅢ受講生）

②シンポジウム — 事前申込制※

〔日時〕2022年2月5日〔土〕12:00～15:00

11:30 開場

〔会場〕大阪大学会館21世紀懐徳堂スタジオ  
（大阪府豊中市待兼山町1-13）

〔パネリスト〕

今井祝雄（美術家・《タイムストーンズ400》制作者）

橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授）

加藤瑞穂（大阪大学総合学術博物館招聘准教授）

※表紙QRコードよりウェブサイトアクセスしお申込みください。  
先着順、定員になり次第、受付を終了します。

## 作者プロフィール

今井祝雄（いまい・のりお）1946年大阪市生まれ。美術家。  
成安造形大学名誉教授。大阪市立工芸高校在学中から  
吉原治良に師事、元具体美術協会会員。第10回シエル  
美術賞一等賞受賞以来、内外の美術展に出品。新大阪  
駅前、関西学研都市の野外彫刻や住吉大社の万葉歌碑  
を制作。大阪市都市環境アムニティ表彰。著書に『都市  
のアートスケープ』（ブレンセンター）、『アーバンアート  
—芸術からの街づくり』学芸出版社）などがある。



## 報 告

大阪大学大学院文学研究科「微しの上を鳥が飛ぶⅢ——文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」

活動⑫「[受講生企画] アーツ・プラクシス」「タイムストーンズ 400 再創造プロジェクト」  
展覧会「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ 400》と考える」

大阪大学大学院人文学研究科  
特任助教 山崎 達哉

### 【開催趣旨】

大阪大学大学院文学研究科では、大阪大学総合学術博物館と共同で、令和元年度から令和3年度まで、アートマネジメント人材育成のプログラムを開催した。これは、文化庁「大学における文化芸術推進事業」による助成を受けたもので、プログラム名を「微しの上を鳥が飛ぶ——文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」と題し、3年計画のプログラムとして開講した。本プログラムは、演劇、音楽、美術など多岐にわたる芸術や文化の諸理論、諸相に具体的に触れることで、アートを展開する場や共同体の特性に応じて臨機応変に対応する実践的な「アート・プラクシス」能力を養うことを理念とした。また、今日のアート・マネジメント人材に求められる、様々な課題への注意深いまなざし、人文学的な考察、その課題に向けたアートによる探求の試みを実践していける人材の育成も目的とした。なお、本事業は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館、浄るりシアター、吹田市文化会館メイシアター、豊中市都市活力部魅力文化創造課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター、箕面市メイプル文化財団と連携し、大阪アーツカウンシル、大阪市立東洋陶磁美術館、京都コンサートホール（京都市音楽芸術文化振興財団）と協力して行った。

プログラムは、様々なアートの現場におけるプラクシス、すなわち実践的な能力を培うためのもので、①セミナーとレクチャーで基礎を学び、②アーティストやアートそのものに触れ、対話などを通じて学習するインターウィークの期間を経て、③実際にアートの制作に携わる、という構成であった。なお、上記の各プログラムにおいては、多種多様な芸術ジャンルを用意し、多種多様な研究者や専門家、アーティストと関わりをもつことができた。なお、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け、オンラインが中心のプログラムとなったが、アートに触れ、アーティストと交流を深めることはでき、受講生への教育も十分に行うことができた。最終年度となった令和3年度には、受講生がこれまで学んだ知見や経験の蓄積を活かし、またその学びを社会へ還元すべく、受講生が企画を立て実施する「受講生企画」を実施した。「受講生企画」の実施により、



展覧会「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ 400》と考える」ポスター  
(デザイン：さつきデザイン事務所)





3階展示の様子（撮影：石井靖彦）

より積極的、自立的にアートの制作に携われるようにした。「受講生企画」は全受講生から公募し、「タイムストーンズ400再創造プロジェクト」、「技術と芸術の境界線を巡る東大阪国際芸術展」、「旧真田山陸

軍墓地のエコミュージアム化」の3件を採択した。そのうち、「タイムストーンズ400再創造プロジェクト」では、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室、1階カフェ「坂」を活用した展覧会「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ400》と考える」を開催した。

「タイムストーンズ400再創造プロジェクト」は、今井祝雄作『タイムストーンズ400』（1982年）が抱える管理者や所有者、責任者の問題を主な題材として、日本中に設置されているパブリックアートそのものの捉え方を考えるプロジェクトとして始まった。最終的には展覧会を開催すべく、参加した受講生（プロジェクトメンバー）それぞれが調査を行い、作者の今井祝雄とも打ち合わせや相談を重ねていった。

展覧会は、3階セミナー室と1階カフェ「坂」の2か所で開催された。3階セミナー室では、『タイムストーンズ400』にまつわる図面や資料、掲載誌、今井祝雄によるタイムストーンズ400の拓本などを展示した。展示物に関するキャプションや、写真の撮影、文章の執筆、文章と写真をまとめたパネルなどは受講生自らが分担して作成した。1階カフェ「坂」では、プロジェクトに参加した受講生それぞれが関心をもち、調べたパブリックアートについて、写真と文章にて紹介された。

3階セミナー室では、『タイムストーンズ400』に関係する資料が展示された。

映像作品として、『タイムストーンズ400』設置ののち数年後に今井祝雄本人が出演した番組「駅前彫刻（1988年放送）」や、2002年に作成された「Time Stone 21」があった。「駅前彫刻」では、すでにパブリックアートをめぐる様々な課題が取り上げられていた。

図面等の資料として、『タイムストーンズ400』の施工等を担当した株式会社乃村工藝社の「パース1：後方に新大阪駅」（1982年）、「パース2：駅より望む」（1982年）、設立当時に計画されたライトアップに関する書類「新大阪駅前照明設備工事竣工図」（1982年）のほか、「新大阪駅前モニュメント竣工までのスケジュール表」（1982年）なども展示された。パースやライトアップの計画書が展示されたことで、当時の『タイムストーンズ400』設置への意気込みなども感じられるものとなった。

また、今井祝雄本人から、『タイムストーンズ400』設置時の写真アルバムなども提供していただき、当時の様子がわかるものであった。特に、竣工当時に開かれた会では、巫女に扮した出演者が『タイムストーンズ400』をめぐってパフォーマンスをした様子もみることができた。そのほか、『タイムストーンズ400』が掲載された様々な書籍や冊子、パンフレットなども展示した。上記以外に、『タイムストーンズ六景』（1982年）、『拓本タイムストーン（正面）』（2002年）や、『スパイラルストーンズ』なども展示した。



1階展示の様子

1階カフェ「坂」では、プロジェクトメンバーが関心をもったパブリックアートについて、それぞれが調べた内容を写真付きで解説した。紹介された作品は、作者不明『かたらいの像』（1972年）轟公園、建畠覚造（デザイン）『牧神・音楽

を楽しむの図』（1958年）中之島フェスティバルタワー、中島一雄『地球と群像（名称／郵便創業100年記念郵便ポスト）』（1971年）日本銀行大阪支店前、川崎廣進『クジラモニュメント』（1993年）クジラパーク、吉原治良『作品名不明（大理石壁画）』（1958年）西長堀アパート入口、金野弘（原画）『大洋の彼方に旅立つ客船』（1993年）さんちか1番街、谷本景『古代から2020』（2021年）KOBÉ三宮センター街、の7点であった。

カフェ「坂」の外庭には、タイムストーン原型のレプリカも展示された。庭の風景と石のレプリカが同化しやすくなっており、来場時には気づけなかったかもしれない。しかし3階の展示室には、退館時に気づいてもらえるよう案内を設置しており、退館前に再度展示室へ戻る、展示室の拓本と比較するなど、循環的な鑑賞ができるよう試みた。

なお、展覧会期間中には、トークイベントと、シンポジウム「まちのアートは、誰のもの」も開催し、パブリックアートをめぐる問題を議論した。展覧会終了後には、プロジェクトメンバーにより、記録集「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ400》と考える」も作成され、プロジェクト開始から展覧会や各種イベントまでをまとめ、さらに、メンバーそれぞれによる考察・意見も記述された。



外の展示の様子（撮影：石井靖彦）

本展覧会で展示された作品のいくつかは、展覧会期間中に今井祝雄本人と話がまとまり、大阪大学総合学術博物館が預かり、調査研究が行われる予定となっている。展覧会開催を目標として、プロジェクトメンバーは準備、調査、展示など様々な仕事に携わるだけでなく、インタビューや議論など、活発な意見交換も行った。また、作家である今井祝雄本人とも対話を重ね、折衝していくことができたのは非常に貴重な経験となったであろう。本プログラムでは、アートを実践（プラクシス）することに重きを置いたため、準備運動もそこそこに展覧会開催という荒波へ飛び込むというかたちになった。そのため、反省点は多いかもしれない。しかし、考えるより動いてみる、という方法を取ったからこそできた面も少なからずあり、だからこそ生まれた良いこともあったと思われる。展覧会そのものだけでなく、展覧会開催の方法自体に実験的な手法が取れるのも、教員・職員の方々の協力のもと、大学博物館だからこそできたのではないだろうか。



記録集「パブリックアートってなんだ？—《タイムストーンズ400》と考える」表紙（デザイン：坂本京子）



## 5. 展覧会報告Ⅴ

大阪大学総合学術博物館金森マユ写真展

「定住とはなんだろう：  
オーストラリア」



## 概 要

大阪大学総合学術博物館 金森マユ写真展 「定住とはなんだろう：オーストラリア」を2022年2月22日（火）から3月15日（火）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。この展覧会は、オーストラリアのシドニー在住の写真家金森マユの日系移民の歴史と現在についての写真を、大阪大学文学研究科が主催し、総合学術博物館が共催する「徴しの上を鳥が飛ぶ-文学研究科におけるアーツ・プラクシス人材育成プログラムⅢ」の一環として、展示したものである。展覧会では、今日のオーストラリアへの日系移民の未裔たちの現在を中心に、「定住とはなんだろう」という一つの場所に暮らすことの意味を問いかけ、彼らの歴史、祝祭、日常を映し取った作品で、その意識を浮き彫りにした展覧会を構成した。また、コロナ禍ゆえに日豪間の移動はできず、写真家の金森マユをはじめ、キュレーター、展覧会プランナー、デザイナーなどすべて制作スタッフはオーストラリア在住であるため、大阪とオンラインで結んで、企画から展示作品まですべてオンラインで電送し、展覧会として公開するという、デジタル時代の展覧会の手法上の探求も併せて試みた。本展覧会の期間中の来場者は、475名と好評であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 金森マユ写真展

テーマ：「定住とはなんだろう：オーストラリア」

期 間：2022年2月22日（火）～3月15日（火）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム 3階セミナー室

主 催：大阪大学大学院文学研究科

共 催：大阪大学総合学術博物館

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

大阪中之島美術館

浄るりシアター

公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター）

豊中市都市活力部魅力文化創造課

兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）

公益財団法人 箕面市メイプル文化財団

協 力：大阪アーツカウンシル

大阪市立東洋陶磁美術館

京都コンサートホール（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

入館者数：475名



Alice Springs アリス・スプリングス (2005)

# 金森マユ写真展

「定住とはなんだろう：オーストラリア」

2022年2月22日 (火)



2022年3月15日 (火)

開館時間：10時30分～16時30分(入館は16時まで)

文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

徴しの上を鳥が飛ぶⅢ

開催会場：大阪大学総合学術博物館 3階多目的ルーム  
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel: 06-6850-6284  
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

主催：大阪大学大学院文学研究科 / 共催：大阪大学総合学術博物館

連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール / 大阪中之島美術館 / 浄るリシアター / 公益財団法人吹田市文化振興事業団(メイシアター) / 豊中市都市活力部魅力文化創造課 / 兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター) / 公益財団法人箕面市メイプル文化財団  
協力：大阪アーツカウンシル / 大阪市立東洋陶磁美術館 / 京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

令和3年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

期間中 3階セミナー室：  
金森マユ関連映画上映中  
『あなたは私を蝶と間違えた』

入館  
無料



<https://teiju.mayu.com.au/>



- 阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分
- 大阪モノレール・柴原阪大前駅より徒歩約20分
- ※公共交通機関をご利用ください。



## 報 告

大阪大学総合学術博物館金森マユ写真展

「定住とはなんだろう：オーストラリア」

大阪大学総合学術博物館

館長 永田 靖

テ ー マ：「定住とはなんだろう：オーストラリア」

期 間：2022年2月22日（火）～3月15日（火）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム 3階セミナー室

主 催：大阪大学大学院文学研究科

共 催：大阪大学総合学術博物館

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

大阪中之島美術館

浄るりシアター

公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター）

豊中市都市活力部魅力文化創造課

兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）

公益財団法人箕面市メイプル文化財団

協 力：大阪アーツカウンシル

大阪市立東洋陶磁美術館

京都コンサートホール（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

入館者数：475名

### 【開催趣旨】

この写真展は、大阪大学文学研究科が主催する「徴しの上を鳥が飛ぶ－文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラムⅢ」の活動⑤「ジオ・パソロジーを越えて」の一環として開催されました。このプログラムは、アート人材を育成する大阪大学としての社会人教育プログラムで、多くの受講生とともに、現代世界の様々な課題にアートを通して向き合いながら考察して行くものです。その中のひとつの取組が「ジオ・パソロジーを越えて」です。これは私たち人間が暮らしている場所に取り憑かれ、引きつけられ、離れたつもりになっても離れられない一種の病を問題にしようとしたものです。そこには、場所の持つ規範やしきたりなどが強く働くこともあるでしょうし、逆に離れてしまった場所に対する郷愁にかられることもあるでしょう。あるいはその場所の人々の無邪気にも残酷な差別意識に苛まれることもあるはずです。そのような場所に囚われている病をどうにか越えて行くことはできないものか、そういう問いを、オーストラリアのシドニー在住の写真家の金森マユさんの仕事と触れあうことで考察しようと思いました。この取組は2021年度から2022年度にかけての2年間の計画で、この写真展はそのひとまずの成果の発表です。



【展示内容】（以下では個人名の敬称を略しています）

今回の写真展は、多目的ルームの間仕切りを取り外し、イントロダクションの第1室以外を、大きな一室として扱う構成をおこなった。



第1室



第2室

第1室はイントロダクションにあたる部屋である。メインビジュアルであるポスターを引き伸ばした写真を掲げているほか、金森マユやキュレーターのサンディ・エドワーズのメッセージを掲示した。作品では「マスダファミリー」「ゆみちゃん」「玲子さんとリリーちゃん」など近年金森が交流のあった人々の作品を掲示した。金森とともに今でもよく仕事をするダンサー「ゆみちゃん」は、舞踏グループ大駱駝艦のダンサーであったが、1991年にメルボルンに移住している。また「玲子さんとリリーちゃん」（写真1）の暮らす北部のオエンペリは先住民居住区に指定されており、入るためには特別許可が必要である。また「マスダファミリー」（写真2）は和歌山県出身のマスダさんが渡豪後にフィリピン／スコットランド系アボリジナル女性と結婚、そして今に繋がる「家族の肖像」である。オーストラリアに定住して築く家族、そして現代においてオーストラリアに移住しダンスを続ける一人の日本人、これらの写真は今回の写真展のメッセージをストレートに伝えている。



写真1 「玲子さんとリリーちゃん」  
（写真：金森マユ、2001）



写真2 「マスダファミリー」  
（写真：金森マユ、2008）



第1室の抜けると大きな空間が広がる。ここでは「アレッドとカイファ」「ヴィンセントの庭」「ルーシー、アレックとカイファ」など、和歌山県出身の母方の祖父の血をひく兄弟やその叔父たちの休日の断片、また日系2世の姿が活写されている。後者の写真に映るルーシーさんは、その父親探しの日本への旅を、金森とともにやり、金森はそれをドキュメンタリー作品『ハート・オブ・ジャーニー』（2000）に昇華させている。

また金森は日本人ダンサー浅野和歌子、箏奏者小田村さつき、またビック・マキュワン  
の音楽や岩井成昭らのダンスとともに、オーストラリアに残る日本人墓地をめぐる鎮魂  
と供養のパフォーマンス『イン・リポーズ』（写真3）を2007年から2010年まで展開した。  
それは木曜島、プリンス・オブ・ウェールズ島、ハネムーン島、ダウンズビル、ブリズベン、  
シドニー、カウラ、メルボルン、ローボーン、コサック、ポートヘッドランド、ブルーム、  
ダーウィンに及んだ。第2室にはその展開を図解する解説図版と写真の他に、日本人墓  
地の数々、ダンサー浅野和歌子のパフォーマンスの写真などが展示され、パフォーマンス  
の記憶を刻印するとともに、日系移民の命と歴史へと想起させた。



写真3 「インリポーズ」(写真：金森マユ、マップデザイン：村岡稚恵)

日本人墓地の写真は数多く展示され、ブルームやタウンズビル、コサック、カウラなど  
さまざまな風景を見せている。「ウェルカム・トゥ・カンタリー」では、金森がこの地を訪  
問する時かならず墓参するというブルームの日本人墓地で行われている他者を歓迎する伝  
統的な儀礼や、今では閉鎖されたままの「コサックの日本人墓地」(写真4)の写真、また  
ブルームの日本人墓地に佇む今は亡き「阿久根さん」の写真などが掲示され、日本人墓地  
の今の姿を描いている。太平洋戦争中には日本人兵士は戦争捕虜として、民間人は抑留者

として拘束、収監された。1945年には捕虜は5000人を、抑留者は4000人を越えたという。カウラの収容所では1944年にその数1100人に達した捕虜たちは脱走する事件を起こし、234名の死亡者を出したという。これらカウラの戦争墓地については、金森の印象深い数々の写真（写真5など）と、オーストラリア国立大学田村恵子教授のこの事件についての研究や、さらにはオーストラリアの日本人移民史についてのクイーンズランド大学永田由利子教授の研究のテキストを掲示し、写真展に歴史研究としての奥行きをもたせた。



写真4 「コサックの日本人墓地」  
(写真：金森マユ、2008)



写真5 「カウラ捕虜収容所洗面所跡」  
(写真：金森マユ、2009)

金森も日本人移民史については継続的に関心を持ち続け、このプログラムで前年「微しの上を鳥が飛ぶⅡ」で、日本人女性史を扱う映画『あなたは私を蝶と間違えた』を制作している。この作品は19世紀末の西オーストラリアで起こったレイプ事件に照明を当て、当時多くの女性移民（からゆきさん）が渡ったこのオーストラリアの歴史の地層を掘り起こすものである。この作品も今回の写真展とともに、隣室（セミナー室）にて、常時上映をおこなった。

また、近年金森は同じく19世紀末に和歌山県から渡豪した一人の商人にして、写真家であり発明家である村上安吉に照明を当て、その生涯について戯曲『ヤスキチ・ムラカミ：スルー・ア・ディスタント・レンズ』（2014）を完成させている。この上演写真も掲示され、日系移民の歴史の深層に入り込む糸口となっている。（この作品は2022年6月に早稲田大学においてプロの演出家・俳優によるリーディング公演も行われた）。

金森は日系移民にのみ関心があるのではなく、先住民、アボリジナルにも深い関心を寄せている。それは先住民の多くが、真珠産業で働いていた日本人の血を引いていることも関係している。金森はそれらの人々と多く触れ合うことで、数多くの物語を聞き、写真を撮り、また思索を続けた。何より印象的なのは、第1室との境界の壁面にそれら先住民との大きな写真コラージュ「先住民、アボリジナルと日本人のミックスヘリテージ」（写真6）が掲示されており、その反対側の第2室の最奥の壁面にはカウラの日本人戦争墓地の墓のプレートのコラージュ「カウラに眠る」（写真7）と対峙させていることである。日本人捕虜として亡くなった524名のネームプレートと、先住民の明るい顔々が私たちの意識をその歴史へと誘いまた、現在から未来への希望を抱かせる。





写真6 「先住民、アボリジナルと日本人のミックスヘリテージ」(写真：金森マユ、1998-2000)

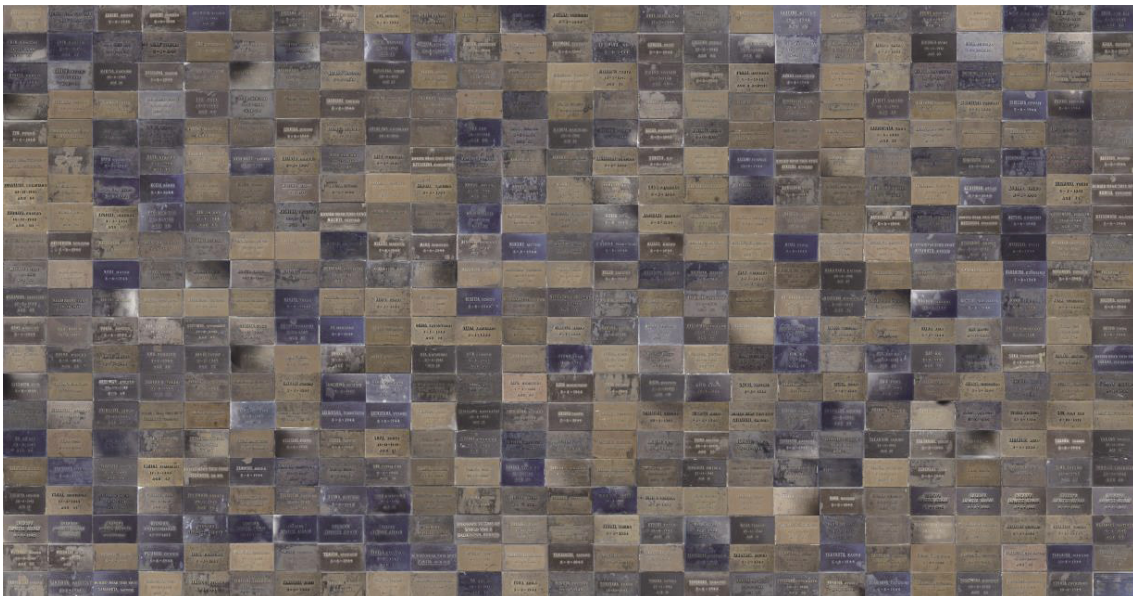


写真7 「カウラに眠る」(写真：金森マユ、2013-2019)

先住民については、東京外国語大学山内由里子教授のオーストラリア先住民のテキストが示され、歴史的な扱いを提示した上で、金森のさまざまな先住民の写真、真珠貝採取船を復元した観光船とアボリジナル旗を映し取った写真、オーストラリア上空から撮った砂漠の写真など、歴史と時間を縦横に巡る軸も用意した。ホールを廻り、最後に近く、若い女性「りかちゃん」についての写真が掲示されている。彼女は金森の親しい現代ダンスのダンサーで日本への留学を考えているという。これらの写真が撮られたマリックビルはシドニー郊外の川の流れる閑静な自然の中だが、この静かな写真たちの中にも一枚、「You

Are On Stolen Land (あなたは奪われた土地の上にいる)」(写真8)がある。この写真は、この土地では6万年以上前から先住民たちが漁をし、生活をする場所だったのだが、ほんの250年前にそれは破壊されはじめ、汚染されて、今では先住民が住むこともできないことを描いている。



写真8 「You Are On Stolen Land (あなたは奪われた土地の上にいる)」(写真：金森マユ、2021)

このように多くの写真が展示されているが、金森自身の歴史についてはほとんど語られていない。それでも「豪州移民制限法とカンタス航空」(写真9)という、空を行く一機のカンタス航空機と、白豪主義政策の一つ「豪州移民制限法」の表紙写真とがコラージュされた作品が掲示されている。そのキャプションに「1981年、私はオーストラリアのフラッグ・キャリア、カンタス航空でこの地にやってきたのだ」と金森は記している。金森の作品制作の源泉にはこの二つ、カンタス航空と豪州移民制限法が今でも根付いていることがわかる。金森自身についての写真は、もう一枚、入り口の冒頭に置かれた「Body Weather (身体気象)」についてのコラージュ写真である。ダンサー田中浜の教え子たちとのコラボレーション作品であるこの「身体気象」では、アリス・スプリングスでダンサーたちと過ごした記憶を写し取っているが、ここに金森はカメラのレンズを覗く自画像を入れている。その下にはオーストラリア日系人たちの数多くの明るい笑顔とのコラージュがあり、題して「オーストラリア日系人の辞書」(写真10)という。オーストラリア日系人のことを知るためには、これらの笑顔の人々につき従って学ぶべきであるし、ここオーストラリアで生きていくためには、これら少数派としての日系人の知恵が必要なのだと説く。



この写真は、そのような金森自身の写真家としての自負と敬意をも描き出しており、それはこの写真展のポスターのメインデザインにも生かされている。このパフォーマンスの場所であるアリス・スプリングスの砂漠を背景に、自らレンズを構える影姿をコラージュして見せる、謙虚だけれども、深い信念に縁取られた写真家金森マユを感じることができる。



写真9 「豪州移民制限法とカンタス航空」  
(写真：金森マユ、2011)



写真10 「オーストラリア日系人の辞書」  
(写真：金森マユ、2001)

最後にこの写真展の制作についても記しておかねばならない。今回の写真展はコロナ禍の最中に企画され、制作された。まず写真展全体のコンセプトを立て、膨大な写真群の中からキュレーションをしないといけないが、渡豪することもできない私たちは、それをすっかり金森さんやキュレーターのサンディ・エドワーズさんをお願いした。サンディさんは金森さんのお仕事を熟知するシドニー在住の写真家であり、かつキュレーターでもある。とても緻密で的確なキュレーションで、金森さんの世界を構成して下さったことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。また同じくシドニー在住のデザイナー村岡雅恵さんにも、シャープで暖かなデザイン・コンセプトで、展示に関する様々なデザインをお願いし、今回のような美しい写真展となったことに、お礼を申し上げます。これらの作品や制作物は、すべてシドニーから日本に電送にて送り、京都でプリントアウトし、当館にて展示するという手法をとった。シドニーでの企画された展覧会のプランを、図面だけを頼りに大阪で実現可能かどうか、個人的には不安であったが、極めて精緻な図面を制作して下さり、非常にスムーズに仕込み作業ができた。もちろんそれには、展覧会プログラムの編集をして下さった京都在住の写真家名取響海之助さんの手際よい差配とサポートゆえのことであり、改めて名取さんにもお礼を申し上げたく存じます。

## 6. サイエンスカフェ@待兼山

期 間：サイエンスカフェ@待兼山

2022年1月22日（土）～ 2022年3月19日（土） カフェ No.162 ～ 166

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

大阪大学で行われている最新の研究を広く社会に紹介するとともに、普段、接する機会の少ない専門家と一般の方々間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は2008年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。また、2016年度からは、豊中市立中央公民館との共催で、「サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館」を実施してきたが、2021年度は2020年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「サイエンスカフェ@待兼山」のみの開催となった。両講座ともに現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。

尚、2021年度は2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、すべてオンラインにて実施しており、遠隔地からの参加など参加者層に変化が見られた。

サイエンスカフェの実施状況：

2008年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施13回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施14回
2009年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施10回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9回
2010年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施10回
2011年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施15回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8回
2012年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施11回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8回
2013年度	前期	カフェ No.108 ～ 112	実施 5回
	後期	カフェ No.113 ～ 116	実施 4回
2014年度	通年	カフェ No.117 ～ 126	実施10回
2015年度	通年	カフェ No.127 ～ 134	実施 8回
2016年度	通年	カフェ No.135 ～ 141	実施 7回
		カフェ No.C-1 ～ C-3	実施 3回
2017年度	通年	カフェ No.142 ～ 147	実施 6回
		カフェ No.C-4 ～ C-6	実施 3回
2018年度	通年	カフェ No.148 ～ 151	実施 6回
		カフェ No.C-7 ～ C-9	実施 3回
2019年度	通年	カフェ No.152 ～ 153	実施 2回
		カフェ No.C-10～ C-11	実施 2回
2020年度	通年	カフェ No.157 ～ 161	実施 5回
2021年度	通年	カフェ No.162 ～ 166	実施 5回

## サイエンスカフェ@待兼山 (2021年：2022年1月22日～2022年3月19日 No.162～166)

No.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
162	1/22 (土)	対席調停の会話分析：当事者たちの「関心」をどうやってつかむか	トラブルを解決するために、対席方式の調停を使うことは考えにくいかもしれませんが。当事者たちが対面すると感情がぶつかりやすいと思われがちです。しかし、実際の対席調停では、当事者たちは、調停者の「適切な対応」のもとで、冷静に対話できるだけでなく、自ら提案もするのです。その「適切な対応」とはどのようなものかについて、当事者たちの「関心」という観点から、実際の調停の録音データをもとに考えてみます。
		李 英 氏	
163	1/29 (土)	酵素を化学の方法で分析－インフルエンザ治療薬開発への応用－	私達の身の回りにはたくさんの酵素が働いています。例えば、私達は、ご飯を食べると体内の酵素が働き、デンプンを分解し、ブドウ糖を作ります。そして、我々の体はそのブドウ糖を取り込みエネルギーとします。この過程で数種類の酵素が働きます。また、同様にウイルスも我々の体に侵入する際、複製するときに酵素を使います。これらの反応はいずれも有機化学反応ですが、実際にフラスコの中で同じ反応をすると時間がかかります。しかし、同じ反応を酵素はいとも簡単に行います。この講義では、酵素がどうして簡単に反応を起こすことができるのか？そしてそれを理解することでインフルエンザウイルス治療薬ができた話を紹介します。
		梶原 康宏 氏 香門 悠里 氏	
164	2/19 (土)	“大大阪” チラシ学事始め レトロ・モダンなチラシに 風俗と歴史を探る	大正末・昭和初期の大阪市は第2次市域拡張で“大大阪”と呼ばれるマンモス都市となります。この時代の大阪の印刷物コレクションから、服飾、食べ物、カフェ、劇場、行楽などのチラシを取り上げて、レトロなデザインを愉しみながら、参加者とともに内容を読み解いていきます。
		橋爪 節也	
165	3/12 (土)	光を感じる仕組み - 脊椎動物の視細胞のはたらき	私達は、月明かりのものであっても、明るい太陽のものであっても、ものをみることができます。この能力を支えているのは、目の中で光を捉える働きをしている2種類の視細胞です。今回は、2種類の視細胞がそれぞれどのように光を捉えているのか、また、他の動物と私達では光の捉え方にどのような違いがあるのか、について紹介します。
		橋木 修志 氏	
166	3/19 (土)	機能的食品、生薬、漢方薬の研究データの見方	人々の健康志向の高まりも相まって、製薬、食品メーカーから様々な機能的食品や生薬、漢方薬を活用した製品が販売され、ホームページや書籍などで、たくさんの研究データが公表されています。それらの情報との付き合い方をお話できればと思います。
		原田 和生 氏	



# Science Café at Machikaneyama

オンラインで大阪大学総合学術博物館が主催するサイエンスカフェを楽しみませんか。「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。専門家と一般の方々とのコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 162

2022年1月22日(土)

## 対席調停の会話分析： 当事者たちの「関心」をどうやってつかむか

講師：李 英（法学研究科・特任助教）

時間：14:00～15:30

対象：高校生以上

No. 164

2022年2月19日(土)

## “大大阪”チラシ学事始め レトロ・モダンなチラシに風俗と歴史を探る

講師：橋爪 節也

（大阪大学総合学術博物館 兼 文学研究科・教授）

時間：14:00～15:30

対象：中学生以上

No. 163

2022年1月29日(土)

## 酵素を化学の方法で分析 ーインフルエンザ治療薬開発への応用ー

講師：梶原 康宏（理学研究科・教授）

香門 悠里（理学研究科・講師（常勤））

時間：14:00～15:30

対象：高校生以上

No. 165

2022年3月12日(土)

## 光を感じる仕組みー脊椎動物の視細胞のはたらき

講師：橋木 修志（生命機能研究科・准教授）

時間：14:00～15:30

対象：中学生以上

No. 166

2022年3月19日(土)

## 機能的食品、生薬、漢方薬の研究データの見方

講師：原田 和生

（医学系研究科 兼 薬学研究科・特任准教授（常勤））

時間：14:00～15:30

対象：高校生以上

## サイエンスカフェ@待兼山(2021年度)

開催方法：Zoomによる**オンライン配信** \*オンライン会議アプリ

定 員：各回50名

参加費用：無 料

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

### 申込・参加方法 Webフォームにてお申し込みください

募集開始：2021年12月24日(金) 10時～  
博物館のホームページ、または下記のURLから  
お申し込みください。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2021-12-24-15896/>

※今年度はオンライン会議アプリZoomによる配信で行います。  
配信の視聴には、パソコン・スマートフォンなどの端末および  
インターネット環境が必要です。視聴にかかる通信費等は視聴  
する方の負担となります。当日の視聴者のネットワークトラ  
ブルについては対応致しかねますのでご了承ください。

- ・締切は各カフェ開催日の1週間前までです。  
各カフェで異なりますのでご確認をお願いします。
- ・募集は先着順とします。
- ・お申込み頂いた方には、ご登録頂いたメールアドレスに  
参加方法をご連絡いたします。
- ・お申し込みの際、個人情報について利用目的以外の使  
用は一切いたしません。

## 7. 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示

期 間：2021年12月4日（土）～12月11日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館1階 カフェ「坂」

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市教育委員会／豊中市教育センター

後 援：豊中市

### 【展示概要】

大阪大学総合学術博物館では毎年、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で、特に優秀な作品を選び展示・表彰しています。今年の豊中市立小中学生理科展出品児童・生徒の自由研究作品約90点から選ばれた優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で展示しました。

### 【受賞作品】

- ・植物の葉序の観察  
(南部陽一郎賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・どれぐらいの風が吹けば桶屋は儲かるのか？  
(大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・それいけ！ダンゴムシ迷路！～オカダンゴムシの交替性転向反応について  
(大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・花粉の特徴とその意味  
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・プランクトンとの出会い  
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞受賞 受賞)
- ・千里川の微生物  
(豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞受賞 受賞)
- ・BCG ワクチンのふしぎ  
(豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・魚の顎の標本  
(大阪府学生科学賞 受賞)

- 「はる」の研究  
(大阪府学生科学賞 受賞)
- 雲から天気を予想する  
(大阪府学生科学賞 受賞)
- セミの解剖  
(大阪府学生科学賞 受賞)
- 断熱・保温の効果の研究 温度変化の記録(資料)  
(大阪府学生科学賞 受賞)

大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター

コラボレーション企画

とよなか しりつしょうちゅうがくせい りかてん  
豊中市立小中学生 理科展

# サテライト展示



ことし とよなか しりつしょうちゅうがくせい りかてん しゅつびん  
今年の豊中市立小中学生理科展に出品された

じどう せいと じゅうけんきゅうさくひんやく てん えら  
児童・生徒の自由研究作品約90点から選ばれた

ゆうしゅうさくひん てん おおさかだいがくそうごうがくじゅつはくぶつかん てんじ  
優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で展示します！

入場  
無料

## 会場

大阪大学総合学術博物館  
待兼山修学館  
ミュージアムカフェ「坂」  
(※カフェの営業はしていません)

## 作品展示

2021  
12/4<sup>土</sup>~12/11<sup>土</sup>  
開館時間 10:30 ~ 16:30

(入館は16:00まで) (5日(日)は休館)



大阪大学  
公立マスコットキャラクター  
「ワニ博士」

問合せ先

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-13 大阪大学総合学術博物館

Tel. 06-6850-6714

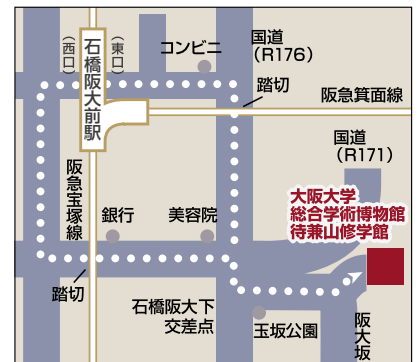
アクセス

阪急電鉄 宝塚線 石橋阪大前駅 (徒歩10分)



大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



▲会場アクセス MAP

※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市教育委員会／豊中市教育センター 後援：豊中市



# 豊中市立小中学生理科展 サテライト展示

大阪大学総合学術博物館では、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で特に優秀な作品を選び、表彰をしています。今回、展示されている作品は以下の各賞を受賞された作品です。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

## 南部陽一郎賞

植物の葉序の観察



## 大阪大学総合学術博物館長賞

どれぐらいの風が吹けば  
桶屋は儲かるのか?

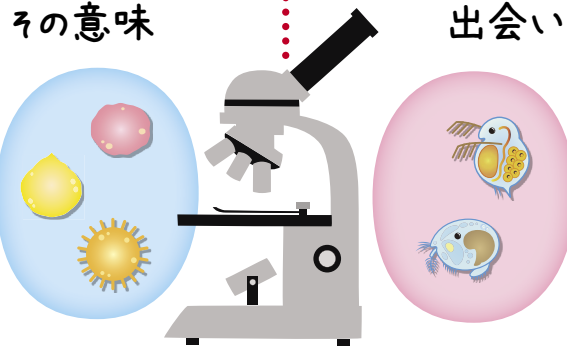


それいナ!ダンゴムシ迷路!  
～オカダンゴムシの交替性転向反応について

## 大阪大学総合学術博物館待兼山賞

花粉の特徴と  
その意味

プランクトンとの  
出会い



## 豊中市教育センターあすなろ賞

千里川の微生物

BCGワクチンの  
ふしぎ



## 大阪府学生科学賞 作品名

- 🔍 BCGワクチンのふしぎ
- 🔍 それいナ!ダンゴムシ迷路!  
～オカダンゴムシの交替性転向反応について
- 🔍 魚の顎の標本
- 🔍 「はる」の研究
- 🔍 プランクトンとの出会い
- 🔍 雲から天気を予想する

- 🔍 千里川の微生物
- 🔍 どれぐらいの風が吹けば桶屋は儲かるのか?
- 🔍 植物の葉序の観察
- 🔍 花粉の特徴とその意味
- 🔍 セミの解剖
- 🔍 断熱・保温の効果の研究  
温度変化の記録(資料)



豊中市  
マチカネくん

## 8. 教員活動報告

### 2021 年度 教員実績表

(2021 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日)

	館 長	永田 靖
【研究・教育部】		
資料基礎研究系	准 教 授	辻野 博文
資料先端研究系	教 授	上田 貴洋
	准 教 授	豊田 二郎
	准 教 授	宮久保圭祐
資料情報研究系	教 授	橋爪 節也
	助 教	横田 洋
【資料部】	講 師	伊藤 謙

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
2 学期・共通教育科目[全学部・全学年]	演劇学入門
1 学期・文学部	演劇学講義
2 学期・文学部	演劇学講義
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
1 学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
通年・文学研究科修士課程	アート・プロデュース論演習
通年・文学研究科修士課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
通年・文学研究科博士前期課程	芸術計画論演習
通年・文学研究科博士前期課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
通年・文学研究科博士後期課程	演劇学博士論文作成演習

## 学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
30 名	6 名	0 名

学位論文審査等（修士論文・卒業論文省略）

学位申請者および論文名	主査・副査の別
木下耕介 視聴覚の物語叙述における登場人物	主査
垣沼絢子 宝塚・東宝レビュー史における近代化と身体統制のイデオロギー	主査

【研究活動】

執筆活動（論文、総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	掲載誌他	報道年月
「サハリンに向き合う-『チェーホフも鳥の名前』」	1) 『演劇学論集』 関西えんげき サイト「劇評アーカイブス」 <a href="https://k-engeki.net/">https://k-engeki.net/</a>	2022年1月24日
「トルストイとの交差-『闇の力』と『生ける屍』」	『島村抱月の世界ヨーロッパ文芸 協会芸術座』 社会評論社	2021年11月、 pp.256-284
「1970年の「ラテルナ・マギカ」	『EXPO70 大阪万博の記憶とアート』 大阪大学出版会	2021年10月
外地の『三人姉妹』	『Arts&Media』 Vol.11 大阪大学文 学研究科アート・メディア論コー ス	2021年7月

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
Performing Rusticity-on some Japanese 'multilingual' plays	Practicing Japan-35 years of Japanese Studies in Poznan and Krakow, Adam Mickiewicz University in Poznan, Jagiellonian University in Krakow,	25 <sup>th</sup> March, 2022	Conference
Message from Asian Theatre Working Group	Post-Covid 19 Asian Theatre, the14 Asian Theatre WG Conference, University of Philippines, Diliman	On Line. 2 <sup>nd</sup> March 2022.	ATWG Convener's Address



「定住とはなにか」	金森マユ写真展セミナー、 徴しの上を鳥が飛ぶ-文学 研究科におけるアート・プ ラクシス人材育成プログ ラム	2022年 1月26日	セミナー
人形浄瑠璃 文楽と鹿角	シンポジウム、能勢浄 りシアター	2021年 12月22日	シンポジウ ム
『12人の怒れる男』について	『12人の怒れる男』劇評 ワークショップ」吹田メ イシアター	2021年 12月11日	セミナー
Theatre and Ecology, Closing	Asian Theatre WG Galway Meeting, IFTR Annual Conference	12, July, 2021	研究集会
いま、臨界点にある演劇：「現代版組踊」から、 演劇と地域、教育、産業を考える	2021年度日本演劇学会全 国大会「臨界点の演劇」シ ンポジウム	2021年 6月26日	コメンテ ーター

#### 【学会等企画運営】

学会名	開催地	役割	期間
The14 Asian Theatre WG Conference, University of Philippines, Diliman, On Line.	University of Philippines, Diliman, On Line	Co-organizer	2-4, March 2022
Asian Theatre WG Galway Meeting, IFTR Annual Conference	Galway, Ireland, On Line	Convener	12 July, 2021
The 9 <sup>th</sup> International Asian Theatre Studies Conference; Theatricality and Audiencey	Korean National University of Arts, Seoul	Co-Organizer	6-7, November, 2021

#### 【共同研究および外部資金獲得状況】

##### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（B）	永田靖	2018～2021	継続
大学を活用する文化芸術推進事業	永田靖	2019～2021	継続

【社会貢献、管理運営等】

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
日本演劇学会会長	2013年6月		継続
International Federation for Theatre Research Asian Theatre Working Group Convener	2009年6月		継続
総合学術博物館長	2015年8月		継続
兵庫県立尼崎青少年創造劇場企画委員長	2013年4月		継続
吹田市文化振興事業団理事	2014年4月		継続
豊中市立文化芸術審議会委員	2015年6月		継続
大阪府市文化審議会委員	2020年4月		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・薬学部	衛生薬学 2
春～夏学期・薬学部	基礎実習 II
夏学期・薬学部	生物物理化学特論
夏学期・薬学研究科博士前期課程	生物物理化学特別講義
夏学期・薬学研究科博士課程	生物物理化学特別講義
秋～冬学期・薬学部	衛生薬学 3 -毒性学・安全化学-
秋～冬学期・薬学部	基礎実習 I

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
9 名	-	-

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
死因診断学総論	大阪大学	2021 年 7 月 24 日
出張講義・実習	北野高校	2021 年 11 月 16 日、17 日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年 月
A New Bitterness Evaluation Index Obtained Using the Taste Sensor for 48 Active Pharmaceutical Ingredients of Pediatric Medicines.	Kojima H., Kurihara T., Yoshida M., Haraguchi T., Nishikawa H., Ikegami S., Okuno T., Yamashita T., Nishikawa J., <u>Tsujino H.</u> , Arisawa M., Habara M., Ikezaki H., Uchida T.	Chemical & pharmaceutical bulletin	69(6) 537-547	2021

Carbon-Carbon Bond Formation between N-Heterocyclic Carbene Ligand on Ruthenium Carbene Catalysts and 1,4-Naphthoquinone via Intramolecular Carbon(sp <sup>3</sup> )-Hydrogen Bond Activation	Wada Y., Takehara T., Suzuki T., Aoki S., Hibi T., Sako M., <u>Tsujino H.</u> , Tsutsumi Y., Arisawa M.	ORGANOMETALLICS	40(16) 2901-2908	2021
Progesterone receptor membrane component 2 expression leads to erlotinib resistance in lung adenocarcinoma cells.	Hanamuro S., Lin Y., Konishi H., Izusawa K., Yang L., Haga Y., <u>Tsujino H.</u> , Nagano K., Higashisaka K., Tsutsumi Y.	Pharmazie	76(12):602-605	2021
Indoxyl sulfate induces an inflammatory response in the proximal tubule via macrophages.	Isaka R., Ishida N., Kitahara G., Sakahashi Y., Haga Y., <u>Tsujino H.</u> , Nagano K., Higashisaka K., Tsutsumi Y.	BPB Reports	4(6): 198-201	2021
Alpha-crystallin B chains enhance cell migration in basal-like 2 triple-negative breast cancer cells.	Yang L., Higashisaka K., Haga Y., <u>Tsujino H.</u> , Nagano K., Tsutsumi Y.	Pharmazie	77(2):45-47	2022
Alpha-crystallin B chains in trastuzumab-resistant breast cancer cells promote endothelial cell tube formation through activating mTOR.	Yang L., Higashisaka K., Shimoda M., Haga Y., Sekine N., <u>Tsujino H.</u> , Nagano K., Shimazu K., Tsutsumi Y.	Biochem. Biophys. Res. Commun.	588:175-181	2022



研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
BeWo 細胞合胞体化モデルを活用した胎盤形成過程に対するナノマテリアルの安全性評価	第 46 回日本化粧品学会	2021 年 6 月	
高品質な機能性食品開発における Food Delivery System の確立を目指した、高水溶性非晶質クルクミンの ADME 解析	第37回日本DDS学会	2021 年 6 月	
新規高水溶性非晶質クルクミンの開発と吸収・分布・代謝・排泄の解析	第 27 回日本食品化学学会	2021 年 6 月	
膜結合性ヘム蛋白質PGRMC1によるフェロトキシシス誘導の機序解明	第 48 回日本毒性学会	2021 年 7 月	
独自の非晶質処方で開発した高水溶性・高吸収性クルクミンの抗酸化作用の解析	日本食品科学工学会第 68 回大会	2021 年 8 月	
非晶質ナノシリカによる胎盤毒性とその誘導機序解明	フォーラム 2021 : 衛生薬学・環境トキシコロジー	2021 年 9 月	
実環境中のマイクロプラスチックの生体影響評価の基盤構築	第 18 回次世代を担う若手のためのフィジカル・フォーラム	2021 年 9 月	
電子伝達機構解明を目指した CYP 還元酵素変異体ライブラリの構築	第 18 回次世代を担う若手のためのフィジカル・フォーラム	2021 年 9 月	
非小細胞肺癌における可逆的薬剤耐性細胞の解析 -EGFR-TKI 耐性における新たな細胞過程の同定-	第 71 回日本薬学会関西支部総会・大会	2021 年 10 月	
化学物質の胎盤毒性解析に向けて-胎盤細胞のトランスporter発現に対するバルプロ酸の影響解析	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
トリプルネガティブ乳がんにおける Src 阻害剤 Dasatinib 抵抗性機序解明	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
実環境中を模したマイクロプラスチックの細胞毒性評価	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
ナノマテリアルの胎盤毒性解析に向けて-銀ナノ粒子が誘導する胎盤細胞の合胞体化抑制における活性酸素種の関与	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
化学物質の胎盤動態解析に向けて-胎盤栄養膜細胞における合胞体化の誘導条件に関する検討	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	

肝細胞がんにおける GABA 代謝関連酵素の役割解明	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
非小細胞肺がんの薬剤抵抗性獲得機構における活性化 AMPK の役割解明	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
神経細胞における非晶質ナノシリカの動態評価	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
ベンゾピレンが細胞老化を介してがんの増悪に及ぼす影響解析	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
化学療法剤抵抗性細胞における PD-L1 を介した免疫逃避機構の解明	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
マイクロプラスチックの細胞毒性及び遺伝毒性評価., 日本薬学会第 142 年会	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
ナノマテリアルの胎盤毒性解析に向けて-非晶質ナノシリカ曝露による胎盤ホルモン産生への影響	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
ナノマテリアルの胎盤毒性解析に向けて-非晶質ナノシリカ曝露による胎盤ホルモン産生への影響	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
タンパク質間相互作用に着目したCytoglobinの新規機能解析	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
脂質ナノディスクを用いた脂質分子が CYP 活性へ及ぼす影響解析	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
CYP3A4 の薬物間相互作用に対する多環芳香族化合物の影響評価	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	
新規核酸医薬分析法開発に向けた検討	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	

### 【共同研究および外部資金獲得状況】

#### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
国立研究開発法人日本医療研究開発機（AMED）医薬品等規制調和・評価研究事業 「核酸医薬を高感度・高精度に分離分析する技術の開発と品質と安全性評価への応用」	辻野 博文	2018 年度～ 2021 年度 (延長)	継続
日本学術振興会 基盤研究 C 「疾患に関与する金属蛋白質のレドックス制御基盤の構築と創薬展開」	三重 安弘	2019 年度～ 2021 年度	継続
厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 「食品への混入が懸念されている環境中のマイクロプラスチックの表面性状に着目した安全性研究」	辻野 博文	2021 年度～ 2023 年度	新規

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
男女協働推進センター兼任教員	令和2年4月		継続
アーカイブズ運営委員会	令和2年10月		継続
適塾記念センター兼任教員	令和3年		新規
安全衛生管理委員	令和3年4月		新規
安全管理者	令和3年6月		新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本薬学会物理系薬学部会	若手世話人	令和3年～	新規
日本薬学会	代議員	令和3年～	新規

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・共通教育・専門基礎科目[理学部・1 年生]	化学基礎論 BI
1 学期・共通教育・専門基礎科目[理学部・1 年生]	化学基礎論 BII
通年・理学部化学科・4 年生	化学特別研究
通年・理学部化学科・4 年生	化学文献調査
1 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学(I)（共担）
1 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
1 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
2 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
2 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーI
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーII
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII
通年・理学部化学科・4 年生	化学特別研究

## 学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
2 名（理学研究科化学専攻）	0	
1 名（理学部化学科）	0	

## 学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
神田泰治（理学研究科化学専攻） Application of Dynamic-Nuclear-Polarization NMR to Structural Analysis of Synthetic Polymer, and ESR Study of the Polarizing Agents （動的核分極-核磁気共鳴分光法の合成高分子の構造解析への応用とその分極剤に関する研究）	副査
松村祐希（理学研究科化学専攻） Peculiar Electronic and Lattice States Near the Mott Boundary in Two Dimensional Molecular Compounds with Strong Electron Correlation （二次元強相関分子性化合物の Mott 境界における特異な電子・格子異常の研究）	副査



## 【研究活動】

### 学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Formation of amorphous and quasi-two-dimensional microcrystalline structures of CO <sub>2</sub> in activated carbon pores at low temperatures	Ana Carolina Cons Bacilla, Ryusuke Futamura, Yasuhiro Sugiyama, <u>Takahiro Ueda</u> , Taku Iiyama	Carbon	193, 88-97	2022.03

### 研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
グラフェンオキサイド層間における水の動的・静的特異性	第34回日本吸着学会研究発表会	2021.10.14-15	オンライン開催
嵩高い分子の ZIF-8 への吸着速度に対する架橋配位子の置換基効果	第34回日本吸着学会研究発表会	2021.10.14-15	オンライン開催

### 研究（学会）発表の世話人、座長、受賞審査など

学会・研究集会など（場所）	年月日	件数	備考
第34回日本吸着学会研究発表会 招待講演・2021年度奨励賞受賞講演	2021年10月15日	2件（座長）	

## 【社会貢献、管理運営等】

### 講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
大阪大学理学部化学科新入生研修・大阪大学総合学術博物館の教育・研究・社会貢献	オンライン開催	大阪大学理学部化学科	2021年 4月16日
第65回豊中市立小中学生理科展の作品選考	豊中市教育センター	豊中市教育センター	2021年 9月4日
第65回豊中市立小中学生理科展の表彰式および作品講評	豊中市教育センター	豊中市教育センター	2021年 11月20日

### 団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
奈良市立一条高等学校 見学（38名）	2021年11月11日	

### 学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
図書館委員会委員	2012年4月		継続
総合図書館図書選定小委員会委員	2012年4月		継続

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業 記念出版・展示実行委員会委員	2017年1月		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本吸着学会 運営委員会	運営委員長	2019年4月～	継続
日本吸着学会	理事（企画担当）	2019年4月～	新規
豊中市学校教育審議会委員	副委員長	2019年4月～	継続
大阪大学生協	教職員理事	2014年5月～	継続
大阪大学生協	教職員常任理事	2017年5月～	継続

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
春学期・工・1	化学基礎論 AI
夏学期・工・1	化学基礎論 AII
春～夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学 (I)
夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学 (I)

## 学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
ODINS 運用部会 部局ネットワーク担当者	2002年 4月1日		継続
グローバル情報委員会	2019年 4月1日		継続

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
秋学期・工学部・1年	化学基礎論 BI
冬学期・工学部・1年	化学基礎論 BII
夏学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学 (分担)

## 著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
EXPO' 70 大阪万博の記憶とアート	橋爪節也・ 宮久保圭祐 編著	大阪大学出版会	118	2021年10月



## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
春夏・全学教育推進機構	東洋美術史
秋冬・文学部	日本美術史講義
秋冬・博士前期課程	日本美術史講義
秋冬・博士前期課程	世界のなかの日本美術
秋冬・博士後期課程	日本美術特殊講義
春夏・文学部	日本美術史演習
秋冬・文学部	日本美術史演習
春夏・博士前期課程	日本美術史演習
秋冬・博士前期課程	日本美術史演習
春夏・博士後期課程	日本美術史特殊演習
秋冬・博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習
通年・博士前期課程	日本美術史演習
通年・博士後期課程	日本美術史特殊演習
春夏・文学部	東洋美術史演習
秋冬・文学部	東洋美術史演習
通年・文学部	博物館学(学内実習)
通年・文学部	芸術計画論演習
春夏・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
秋冬・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
春夏・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
秋冬・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
通年・修士課程	芸術計画論演習
社会人・学生	徴しの上を鳥が飛ぶー文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

## 学生指導

学生数 (留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
全 32 名 博士後期課程：8名 博士前期課程：10名 学部4年生：9名 学部3年生：5名	3名	3人

## 学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
濱住真有 博士論文「池大雅研究—中国山水画の受容と中国憧憬を中心に—」	主査
飯田花織 修士論文「大正期の京都画壇におけるフレスコ画及びジョット作品の受容」	主査
都築茉莉 修士論文「フリーア美術館所蔵「聖徳太子および二童子像」について」	副査
見学知都世 修士論文「蓮華王院本堂二十八部衆像の様式と制作年代」	副査
中井夏帆 修士論文「法華寺十一面観音菩薩像の再検討」	副査

## 学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
古美術研究旅行	愛知県立芸術大学	2021年10月
美術館論	放送大学	2021年11月
古美術研究旅行	広島市立大学	2021年11月

## 【研究活動】

### 学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「大衆社会とモダン文化-商都・大阪のケース」	橋爪節也	筒井清忠編『大正史講義【文化篇】』ちくま新書		2021年8月
「大大阪と画家たち 第6回「浪花宝船会」と趣味人たち—近代的表現を「宝船」に求めて」	橋爪節也	『やそしま』関西・大阪21世紀協会、上方文化芸能運営委員会	第15号 41 ～123頁	2021年12月
「“大阪イズム”大阪画壇の復権と特質」	橋爪節也	「サロン！雅と俗-京の大家と知られざる大坂画壇」展図録、京都国立近代美術館	276 ～277頁	2022年3月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
『なにわの企業が集めた絵画の物語 ～コーポレート・アート・コレクション 見聞録～』	橋爪節也総合監修	関西経済同友会 企業所有美術品 展実行委員会発 行	全 104 頁	2021 年 5 月
大阪大学総合学術博物館叢書 18 『EXPO' 70 大阪万博の記憶とアート』	橋爪節也/宮久保 圭祐 編著	大阪大学出版会	全 120 頁	2021 年
『浪華百景 One Hundred Views of Naniwa』	橋爪節也監修	(一財)日本ヨー ロッパ・芸術文 化交流財団	全 240 頁	2022 年 3 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
「中心と周縁-文人画は未だ完成していない絵 画」	開館 25 周年記念特別展紀の国わかや ま文化祭 2021 特別連携事業「きのくに の三画人-脇村兄弟のコレクションと ともに」 図録、田辺市立美術館	2021 年
「万博遺産 第 4 回 呼び覚まされるとんがった 時代の感覚——EXPO'70 と前衛音楽」	『CEL』 Vol.128 「【特集】未来を創る —新しい住まいのかたち」大阪ガス エ ネルギー・文化研究所	2021 年 7 月
「万博遺産 第 5 回 ニュージーランド館を吹田 に発見——EXPO'70 のモニュメント」	『CEL』 Vol.129 「【特集】デジタル社 会の歩き方」大阪ガス エネルギー・文 化研究所	2021 年 11 月
「万博遺産 第 6 回 EXPO70 と前衛と前衛芸術 —具体美術協会と「ハンパク」」	『CEL』 Vol.130 「【特集】長寿社会の 歩き方」大阪ガス エネルギー・文化研 究所	2022 年 3 月
「新おおさか KEY わーど」第 12 回「上方落語「百 年目」/お花見するにも慎重に」 いつの時代も人の目が…」	「いちよう並木」No.444、表紙と 3 頁、 大阪市生涯学習センター編集、大阪市 教育委員会発行	2021 年 4 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 13 回「おもしろ名 所案内の言葉づかいも時代とともに」	「いちよう並木」No.445、大阪市生涯学 習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2021 年 5 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 14 回「豈ただに大 阪市民の幸いなるかな/大学の存在は、広く人の ため社会のため」	「いちよう並木」No.446、大阪市生涯学 習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2021 年 6 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 15 回「芝居茶屋に 蓄えられた大阪文化「おちょやん」の舞台、道頓 堀探訪	「いちよう並木」No.447、大阪市生涯学 習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2021 年 7 月 10 日

タイトル等	報道機関名	報道年月
「新おおさかKEYワード」第16回「「市役所竣工」がデザインの見本文字の図案も活力が満ちる」	「いちよう並木」No.448, 大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年 8月10日
「新おおさかKEYワード」第17回「だれが描いたか謎がとけた壁画《クリスタル・リバー》の画家サーレにきかれたこと」	「いちよう並木」No.449, 大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年 9月10日
「新おおさかKEYワード」第18回「読書の秋、郷土研究「上方」の上方風水害号を開いてみた」	「いちよう並木」No.450, 大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年 10月10日
「新おおさかKEYワード」第19回「燃えさかる生命の炎 新しい時代の精神を古い台座に盛る」	「いちよう並木」No.451, 大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年 11月10日
「新おおさかKEYワード」第20回「こんなアイディアどないだと競いあう 趣味人、趣味家、本気のしゃれ文化」	「いちよう並木」No.452, 12月・1月合併号、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年 12月10日
「新おおさかKEYワード」第21回 「「蒐集も亦創作なり」コレクター山本發次郎 大阪らしい美術館を」	「いちよう並木」No.453, 大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2022年 2月10日
「新おおさかKEYワード」第22回「歴史と街のタイムトラベラー そこを抜けると、ここに出ますか」	「いちよう並木」No.454, 大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2022年 3月10日
「サロン！雅と俗-京の大家と知られざる大坂画壇」展図録作品解説	京都国立近代美術館	2022年3月



## 学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
博学連携シンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く～大坂/阪 画壇再考～」、主催 大阪市立大学、大阪市博物館機構・大阪市文化財協会 報告・橋爪節也「“大大阪” 時代と葛藤する画家たち-近代大阪画壇研究の課題」・討議「『大坂/阪画壇』研究のこれから」橋爪節也、菅原真弓（大阪市立大学大学院文学研究科教授）、中谷伸生（関西大学名誉教授）、岩佐伸一（大阪歴史博物館）、清原佐知子（大阪中之島美術館）	大阪歴史博物館	2022年 3月5日	
ML (Museum & Library) 連携企画シンポジウム「学術コレクションと大学-保存と活用-」 橋爪節也「ユニヴァーシティミュージアムの新しい戦略-よみがえる時代の記憶と美意識-」 ディスカッション・並木誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館長）、橋爪節也、五十嵐公一（大阪芸術大学芸術学部教授）	京工芸繊維大学 図書館	2022年 3月6日	Webexによる オンライン開催
シンポジウム「サロン！京と大坂の絵画-継承か断絶か？」、サロン！雅と俗-京の大家と知られざる大坂画壇」展	京都国立近代美術館	2022年 3月27日	

## 報道

タイトル	場所	年月日	備考
橋爪節也「夕刊広告 100年新聞がリードした力強い大阪の情報発信力」	毎日新聞	2021年 10月29日	
インタビュー記事「子どもらに本物 間近で あすから、なにわ企業所有の美術品展」	大阪日日新聞	2021年 10月7日	
インタビュー取材・関西経済同友会主催美術展	NHK・テレビニュース	2021年 10月14日撮影	
橋爪節也「産業と歴史 大大阪の都市美」、毎日新聞創刊 150年 大毎 5万号記念企画「蘇るモダン都市大阪」	毎日新聞企画特集	2022年 2月21日	
日曜美術館「大阪中之島美術館～蒐集もまた創作なり～」に出演	NHK「日曜美術館」	2022年 2月27日放送	テレビ出演

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
大阪学習センター開設 30 周年記念講演会「描かれた中之島と天神祭 - 大大阪時代の画家たちとその作品 -」	放送大学大阪学習センター	放送大学大阪学習センター	2021 年 7 月 31 日
第二回枚方市展講評	枚方市総合文化芸術センター	枚方市	2021 年 12 月 19 日
講演、毎日新聞創刊 150 周年記念「蘇る！モダン都市大阪」	大阪市中央公会堂大集会室	毎日新聞社主催、大阪ガスほか協力	2022 年 2 月 15 日
「サロン！雅と俗-京の大家と知られざる大坂画壇」展、会場ならびにオンライン動画に出演	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館	2022 年 3 月
メモリアルトーク「相聞の台地から、肥田皓三先生を偲ぶ	上町台地今昔フォーラム	大阪ガスネットワーク エネルギー文化研究所 (CLE)	2022 年 3 月 9 日
大阪大学総合学術博物館デジタルミュージアム解説			2021 年

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
大正イマジユリイ学会	常任委員		継続
一般財団法人懐徳堂	評議員		継続
大阪市市民表彰審査会	臨時委員	各年毎に就任	継続
大阪市文化財保護審議委員	委員	2020～	新規
大阪市中央公会堂	文化財保護アドバイザー		継続
吹田市立博物館協議会	委員		継続
八尾市今東光記念館	展示アドバイザー		継続
NPO 大阪美術市民会議	理事		継続
田辺市立美術館協議会	委員	2017～	継続
財団法人・天門美術館評議委員会	評議員	2016～	継続
枚方市美術施設運営委員協議会	委員	2021～	継続
第二回枚方市展	審査委員	2021	継続
毎日放送ラジオ放送審議委員会	放送審議委員	2021～	新規

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・2、3、4年	博物館学（学内実習）
冬学期・全学教育推進機構（大学院）	実践ミュージアムコミュニケーション学
春～夏学期・文学部・2、3、4年	演劇学講義
春～夏学期・文学部・2、3、4年	芸術環境論講義
春～夏学期・文学研究科・博士前期課程	演劇学講義
春～夏学期・文学研究科・博士前期課程	芸術環境論講義
春～夏学期・文学研究科・博士後期課程	演劇学特殊講義

## 学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
映画の歴史	大手前大学	2021年9月～2022年3月

## 【共同研究および外部資金獲得状況】

## 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費補助金 基盤研究（C）「人形資料に基づく乙女文楽の芸能史的発展研究」	林公子（近畿大学）	2019年度～ 2021年度	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・3回生以上	博物館学(学内実習)
1回生	大阪大学の歴史

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
大阪府八尾市顕証寺所蔵の寺宝『大蛇骨』(シャチ頭骨)	伊藤謙他8名(3番名)	地学研究	67巻, 1-10	令和3年5月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
展覧会「身体イメージの創造」 感染症時代に考える伝承・医療・アート	伊藤謙他2名(3番目)	国際日本文化研究センター	100	2021年3月

研究(学会)発表など

タイトル	場所	年月日	備考
大阪大学総合学術博物館資料部の活動 ～コロナ流行下の新たな試み～	豊中地区研究交流会	2021年12月21日	

報道

タイトル	場所	年月日	備考
[磯田道史の古今をちこち] 猫にミカン処方なぜ	読売新聞オンライン	2021/07/14	
第3回日文研-京都アカデミックブリッジ 京で語る医と文化-宗田一生誕生100年	京都新聞電子版	2021/09/30	
日文研 International Research Center for Japanese Studies 第3回 京都アカデミックブリッジ ところ・京都文化博物館 生活史と密着する医学(特集)	京都新聞	2021/11/26	
宗田一氏テーマに京都の医学史ひもとく 日文研、研究成果を紹介	京都新聞	2021/12/21	
歴史発掘ミステリー 京都 千年蔵	NHK BS プレミアム	2022/01/22	

タイトル	場所	年月日	備考
「はたらく臓器」江戸期も関心 大阪 近世～現代の絵図や模型展示	読売新聞（夕刊3面）	2022/02/03	
最初の緊急事態宣言下で発表されたインターネットアート。	美術手帖	2022/02/19	
ええやん！ 大阪府豊中市・とびっきり大きな〇〇に出会う街	NHK ニュース	2022/02/22	
石見銀山の世界遺産登録15年記念 日文研が研究会	朝日新聞デジタル	2022/02/26	
大学博物館へいらっしやい ニッチだけど面白い！とっておきの知的体験	BS フジ	2022/03/27	

#### 【共同研究および外部資金獲得状況】

##### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
カンキツの起源と分類の再構築 - 田中長三郎のさく葉標本と研究ノートの解析 - 研究課題	分担	2020-2023	継続

#### 【社会貢献、管理運営等】

##### 講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
第3回日文研-京都アカデミックブリッジ「京で語る医と文化-宗田一 生誕100年」	京都市文化博物館	国際日本文化研究センター・京都新聞社	2021年10月26日
石見銀山世界遺産登録15周年シンポジウム	オンライン	国際日本文化研究センター	2022年2月19日

##### 学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
豊中地区研究交流会委員会	2020年4月		継続



## 9. 資料

### 掲載項目

- ・ 2021 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

# 2021 年度の主な活動一覧

期間	主な活動
2021 年	
4月26日～6月2日	緊急事態宣言発出のため臨時休館
4月29日	大学創立周年展関連イベント オンラインミュージアムレクチャーを開催した。 「大阪に生きた緒方洪庵と適塾生」（講師：大阪大学適塾記念センター 准教授 松永 和浩氏）、 「阪大・外大の 90 周年・100 年を振り返る」（講師：大阪大学アーカイブズ 教授 菅 真城氏）
6月3日～8月10日	大阪大学創立 90 周年 / 大阪外国語大学創立 100 周年記念事業 大学創立周年記念展「街に生きる学問—学都大阪の礎・つなぎあう想い—」を開催した。（主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市 共催：大阪大学外国語学部、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ、大阪大学大学院文学研究科懷徳堂研究センター、豊中市市民ホール等指定管理者協力：咲耶会（大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会） 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館）
6月12日	大学創立周年展関連イベント オンラインミュージアムレクチャーを開催した。 第一部「外国語学部のこれまでの歩みと今後の展望」（講師：大阪大学外国語学部長・大阪大学大学院言語文化研究科 教授 竹村 景子氏）、第二部 教員・同窓生・学生によるパネルディスカッション
7月10日	大学創立周年展関連イベント オンラインミュージアムレクチャーを開催した。 「生命を支える蛋白質機能の精巧な仕組み」（講師：大阪大学名誉教授（蛋白質研究所）月原 富武氏）、「ノーベル賞はかくして生まれた—湯川秀樹と大阪大学」（講師：大阪大学名誉教授（大学院理学研究科）細谷 裕氏）
10月18日～12月18日	大阪大学総合学術博物館第 15 回特別展「乙女文楽 —開花から現在まで—」を開催した。（主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学大学院文学研究科 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館）
10月30日	特別展関連イベント「吉田光栄 乙女文楽～実演と解説～」を開催した。（実演演目「艶容女舞衣」酒屋「生写朝顔話」宿屋 実演：吉田 光栄氏（乙女文楽座）会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館）
11月20日	特別展関連イベント「桐竹繭紗也 乙女文楽『輝夜姫（竹取物語）』」を開催した。（出演：桐竹 繭紗也氏（人形）井上 真実氏（篠笛）会場：大阪大学会館 1F 21 世紀懷徳堂スタジオ）
12月4日～12月11日	大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展サテライト展示」を開催した。（主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市教育委員会 / 豊中市教育センター 後援：豊中市 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館）
12月18日	特別展関連イベント「ひとみ座乙女文楽～実演と解説～」を開催した。（実演演目「本朝廿四孝」（奥庭狐火の段）実演：亀田 直美氏 他（ひとみ座乙女文楽）会場：大阪大学会館 1F 21 世紀懷徳堂スタジオ）
2022年	
1月17日～2月12日	大阪大学総合学術博物館特別展「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」を開催した。（主催：大阪大学総合学術博物館 / 国際日本文化研究センター）
1月18日～2月5日	展覧会 「パブリックアートってなんだ？ —《タイムストーンズ 400》と考える—」を開催した。（主催：大阪大学大学院文学研究科 共催：大阪大学総合学術博物館 連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 大阪中之島美術館 浄るりシアター 公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター） 豊中市都市活力部魅力文化創造課 兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター） 公益財団法人 箕面市メイプル文化財団 協力：大阪アーツカウンシル 大阪市立東洋陶磁美術館 京都コンサートホール（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館）
1月22日	サイエンスカフェ @ 待兼山 No.162「対席調停の会話分析：当事者たちの「関心」をどうやってつかむか」を開催した。（主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学大学院法学研究科 特任助教 李 英氏 会場：オンライン開催）

期間	主な活動
1月29日	サイエンスカフェ @ 待兼山 No.163 「酵素を化学の方法で分析ーインフルエンザ治療薬開発への応用ー」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学大学院理学研究科 教授 梶原 康宏 氏 講師 (常勤) 香門 悠里 氏 会場：オンライン開催)
2月19日	サイエンスカフェ @ 待兼山 No.164 「“大大阪” チラシ学事始め レトロ・モダンなチラシに風俗と歴史を探る」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：総合学術博物館 兼 大学院文学研究科 教授 橋爪 節也 会場：オンライン開催)
2月22日～3月15日	金森マユ写真展「定住とはなんだろう：オーストラリア」を開催した。(主催：大阪大学大学院文学研究科 共催：大阪大学総合学術博物館 連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 大阪中之島美術館 淨るリシアター 公益財団法人吹田市文化振興事業団(メイシアター) 豊中市都市活力部魅力文化創造課 兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター) 公益財団法人 箕面市メイプル文化財団 協力：大阪アーツカウンシル 大阪市立東洋陶磁美術館 京都コンサートホール (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
3月12日	サイエンスカフェ @ 待兼山 No.165 「光を感じる仕組み - 脊椎動物の視細胞のはたらき」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学大学院生命機能研究科 准教授 橋木 修志氏 会場：オンライン開催)
3月19日	サイエンスカフェ @ 待兼山 No.166 「機能性食品、生薬、漢方薬の研究データの見方」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学大学院医学系研究科 兼 薬学研究科 特任准教授 (常勤) 原田 和生氏 会場：オンライン開催)

# 入館者数集計結果一覧

・2021年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

(単位：人)

大学創立周年記念展

会 期：6月3日(木)～8月10日(火)

入館者数：823人

第15回特別展

会 期：10月18日(月)～12月18日(土)

入館者数：2,080人

特別展 身体イメージの創造

会 期：1月17日(月)～2月12日(土)

入館者数：521人

展覧会「パブリックアートってなんだ？

—《タイムストーンズ400》と考える」

会 期：1月18日(火)～2月5日(土)

入館者数：371人

金森マユ 写真展

会 期：2月22日(火)～3月15日(火)

入館者数：475人

休館日：日曜・祝日

年末年始休業およびメンテナンス休館：

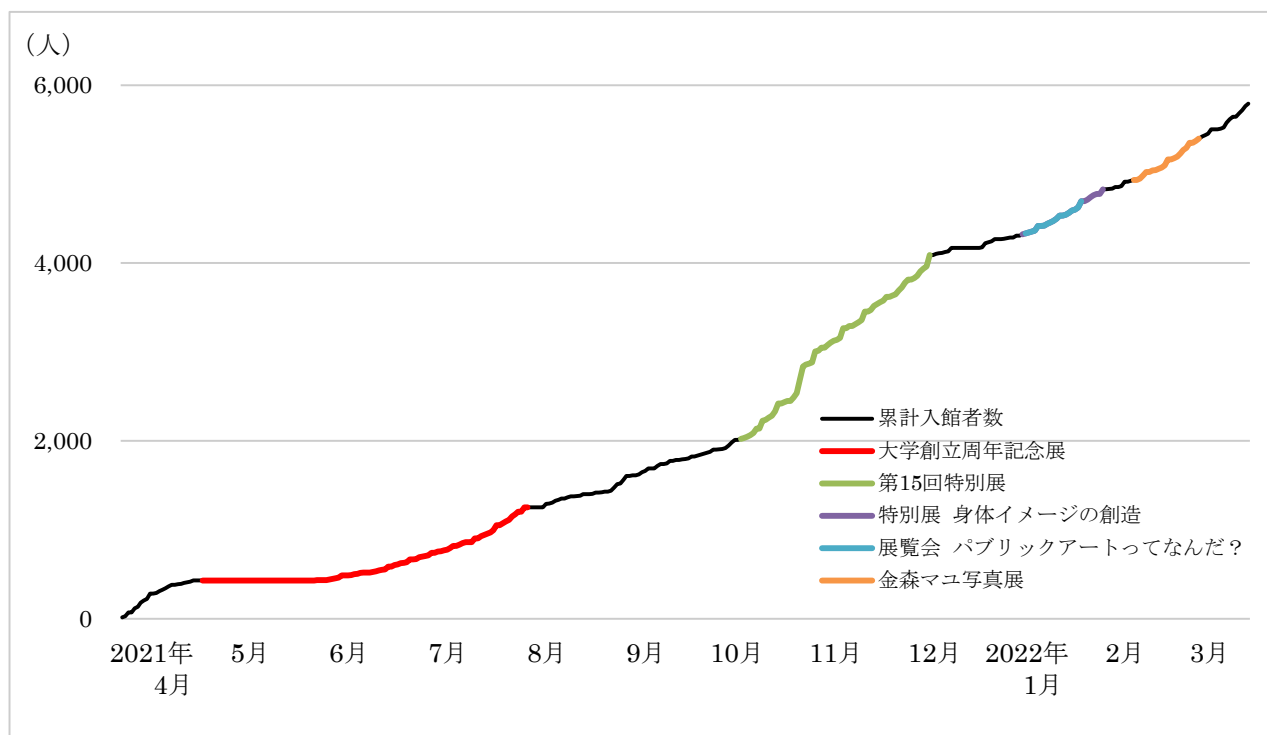
12月27日(月)～2022年1月3日(月)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

4月26日より6月2日まで

及び、6月5日、12日、19日、臨時休館

	入館者数
2021年4月	430
5月	0
6月	194
7月	430
8月	352
9月	391
10月	625
11月	1,098
12月	650
2022年1月	376
2月	496
3月	751
合計	5,793



# 団体見学一覧

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
2021年					
1	7月26日	月	大阪府立刀根山高等学校 2学年	6	伊藤
2	10月15日	金	雲雀丘学園高等学校 2、3年生	28	
3	10月25日	月	兵庫県立明石西高等学校	81	
4	11月11日	木	池田市夕愛連合会	70	
5	11月11日	木	奈良市立一条高等学校	38	上田
6	11月30日	火	NPO 法人 豊中市民カレッジ	38	江口
7	12月8日	水	日産労連エルダークラブ近畿ブロック北大阪地区	18	
8	12月9日	木	豊中市教育センター	17	
9	12月10日	金	香川県立観音寺第一高等学校	24	上田
2022年					
10	1月28日	金	(一社)大阪府建築士事務所協会第1支部	9	



# 関連記事一覧

## 新聞

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内 容
2021 年				
1	11月2日	火	朝日新聞 夕刊 「美術館・博物館」表欄	第15回特別展「乙女文楽」
2022 年				
2	2月3日	木	読売新聞 夕刊	「身体イメージの創造」展覧会
3	2月9日	水	京都新聞	「身体イメージの創造」展覧会
4	3月3日	木	朝日新聞 朝刊	「金森マユ写真展 定住とはなんだろう：オーストラリア」展覧会

## その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌／発行	発行日／巻／号 他	内 容
1	はろーあさひ 阪田新聞補川西山下店 ときわ台店	第443号	「大学創立周年記念展 街に生きる学問」
2	手作り新聞 瓦版や／ 「瓦版や」	2021年6月号 No.319	「大学創立周年記念展 街に生きる学問」
3	豊中市事業（観光あるき） 広報資料／豊中市役所都 市活力部魅力文化創造課		マチカネワニ骨格標本画像
4	水際の興亡史／技術評論社	2021年夏	マチカネワニ
5	トイロビジネス／ 株自然総研	2021年6月15日 第193号	施設紹介
6	ともも No.184	2021年夏	とももメッセージボード 「大学創立周年記念展街に生きる学問」告知
7	北摂まち本／ 株シティライフ NEW	2021年7月30日	博物館施設紹介
8	デジタル教科書掲載資料／ 株新興出版社啓林館	2021年4月1日～ 2025年3月31日	マチカネワニ復元骨格写真
9	総合百科事典ポプラディ ア第三版／株アルバ	2021年11月17日	マチカネワニ
10	MOVE mini は虫類・寮生 るウイ／講談社	2021年7月15日	『もっと知りたい！は虫類の王様 ワニのひみつ』 マチカネワニについて
11	OSAKA モノレール Press／ 大阪モノレール株	2021年9月1日発行 Vol.260	施設紹介
12	豊中手帖 2022/ 菊田印刷	2021年10月	発掘現場・マチカネワニ骨格模型画像
13	手作り新聞 瓦版や／ 「瓦版や」	2021年12月号 No.325	第15回特別展「乙女文楽」
14	「マイホスピタル91号 (1-2月号)」	2021年12月28日	1階湯川関係展示物

## インターネット

No.	掲載ホームページ	内 容
1	シゼンノ	施設紹介
2	阪急電鉄	「金森マユ写真展 定住とはなんだろう：オーストラリア」展覧会
3	大阪観光局公式修学旅行用ウェブサイト 「OSAKA-LOG」	施設紹介

## ラジオ・テレビ等

No.	番組名／放送局	放送日時	内 容
1	よんちゃんTV／ 毎日放送	2021年4月14日	マチカネワニ紹介
2	みのおFM ふろっと ちゃっと	2021年8月8日	博物館施設紹介
3	チャリンジャーZ／ テレビ大阪	2021年9月5日	マチカネワニ紹介
4	ニュースほっと関西／ NHK 大阪放送局	2022年2月22日	マチカネワニ紹介
5	ガリレオ X/BS フジ	2022年3月27日	大学博物館へいらっしゃい

# 寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	愛媛大学ミュージアム	愛媛大学ミュージアム会館 10 周年記念誌
2	豊中市都市活力部文化芸術課	豊中市特別展 2020 「田中健三アートとデザインの軌跡」
3	福井県立歴史博物館	特別展 明治から平成 皇室とふくい 行幸・行啓の記録と記憶
4	福井県立歴史博物館	特別展 天下人の時代 - 信長・秀吉・家康と越前 -
5	大阪城天守閣	テーマ展 幕末大坂の風景 にぎわいと安らぎ
6	太子町立竹内街道歴史資料館	令和 2 年度企画展 叡福寺 聖徳太子御傳絵
7	大山崎町歴史資料館	特別図録 山崎合戦
8	新修宗像市史編集委員会	新修宗像市誌
9	サントリー美術館	美を結ぶ。美をひらく。
10	サントリー美術館	ART in LIFE, LIFE and BEAUTY
11	サントリー美術館	日本美術の裏の裏
12	大阪市立大学	大阪市立大学の歴史
13	大阪城天守閣	元禄期の大坂城関係記録
14	刈谷歴史博物館	研究紀要
15	大阪城天守閣	研究紀要
16	北見博物館	研究紀要
17	福井県立歴史博物館	研究紀要
18	小樽市総合博物館	研究紀要
19	サントリー美術館	研究紀要
20	三重県立総合博物館	研究紀要
21	東北大学総合学術博物館	研究紀要
22	三重県環境生活部文化振興課	旧三重県立博物館・旧三重県立図書館 建造物調査報告
23	かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会	関西圏大学ミュージアム連携活性化事業 事業実施報告書
24	茨木市教育委員会 大阪府文化財センター	報告書 太田遺跡・太田城遺跡 1
25	京都国立近代美術館教育普及室	新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 感覚をひらく
26	西宮市教育委員会	西宮の漁労用具調査報告書
27	九州産業大学美術館	R2 年度 文化庁「大学における文化芸術推進事業」実施報告書
28	同志社大学歴史資料館	撰家二條家墓基礎調査報告書
29	茨木市教育委員会教育総務部歴史文化財課	茨木市歴史的建造物調査報告書 寺院編
30	西宮歴史調査団	年報 2018・2019
31	伊丹市立美術館	館報 2019-2020
32	太子町立竹内街道歴史資料館	館報 R1 年度
33	茨木市立文化財資料館	館報 R1 年度
34	大山崎町歴史資料館	館報 2017・2018・2019
35	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	阪神間モダンライフ
36	大阪狭山市教育委員会	狭山之村近世之図 - 江戸時代の記録を紐解く -
37	奈良大学博物館	なつかしいモノたち
38	香川大学博物館	香川大学博物館 13 年間の歩み
39	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学埋蔵文化財資料館年報 - 平成 28 年度 -
40	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡調査研究年報
41	西南学院大学博物館	ジュダイカ・コレクション ユダヤ教の祝祭
42	西南学院大学博物館	伝えられた「日本」地図にみる日本のすがたとその変遷
43	大学院言語文化研究科	言語文化研究 47
44	大学院文学研究科 芸術学・芸術史講座	フィロカリア
45	益富地学会館	益富地学会館 館報
46	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報 X VI
47	島本町立歴史文化資料館	島本町立歴史文化資料館 館報
48	大東市立歴史民俗資料館	大東市立歴史民俗資料館 館報
49	吹田市立博物館	館報
50	大阪狭山市教育委員会	再発見 狭山池からのめぐみ シンポジウム記録集
51	鳥取大学地域学部	ことばの再発見 - 鳥取で「つくる」人のためのセルフマネジメント講座 -
52	九州大学博物館	九大博 20 年ものごたり

No.	寄贈者	書名
53	鹿児島大学総合研究博物館	紀要
54	金沢大学資料館	紀要
55	西南学院大学博物館	紀要
56	関西大学博物館	紀要
57	九州大学博物館	紀要
58	大阪商業大学商業史博物館	資料目録
59	同志社大学歴史資料館	公家町遺跡発掘調査報告書
60	帝塚山大学考古学研究所研究報告	帝塚山大学考古学研究所
61	島本町文化財調査報告書	島本町歴史委員会
62	離宮八幡宮社家 藤井家文書調査報告書	島本町教育委員会
63	アートマネジメント講座 事業報告書	鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
64	昭和期の第五高等学校 調査報告	熊本大学五高記念館
65	大隈大崎神領 10 号墳の研究	鹿児島大学総合研究博物館
66	鹿児島大学高等農林学校 特業論文・学生調査委員会報告書等	鹿児島大学総合研究博物館
67	オウムガイ自生海域の調査記録	鹿児島大学総合研究博物館
68	おほつ研究	泉大津市教育委員会
69	Art Anthropology	多摩美術大学芸術人類学研究所
70	NEWS	九州大学総合研究博物館
71	多摩美術大学	タマビ DNA 現代日本画の系譜
72	益富地学会館	館報
73	茨木市教育委員会	R2 埋蔵文化財発掘調査概報
74	関西大学なにわ大阪研究センター	なにわ大阪研究
75	八尾市立歴史民俗資料館	館報
76	八尾市立歴史民俗資料館	伊藤國蔵氏絵葉書コレクション 1 館蔵品図録近代資料 1
77	八尾市立歴史民俗資料館	辻合喜代太郎氏収集染織資料 1 館蔵品図録 染織資料 1
78	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	紀要・年報
79	杏雨書屋	杏雨
80	姫路科学館	小林平一コレクション昆虫編 8 マダラチョウ他
81	姫路科学館	小林平一コレクション昆虫編 9 コウチュウ目他
82	浦上家史編纂委員会	浦上玉堂父子の藝術
83	浦上家史編纂委員会	資料編
84	浦上家史編纂委員会	浦上家の歴史
85	奈良大学博物館	東大寺龍松院 拓本展
86	松平公益会	高松松平家所蔵 衆芳画譜 研究編
87	根津美術館	根津美術館新蔵品選 国宝・重要文化財
88	根津美術館	紀要 此君 特集 「新・桃山の茶陶」
89	根津美術館	紀要 此君 特集 「根津美術館の近世風俗図屏風」
90	滋賀大学経済学部附属資料館	研究紀要 滋賀大学経済学部附属資料館
91	立命館大学国際平和ミュージアム	紀要 平和研究
92	立命館大学国際平和ミュージアム	資料研究報告
93	新修宗像市史編集委員会	宗像市史研究
94	日本地学研究会	地学研究
95	益富地学会館	館報
96	立命館大学国際平和ミュージアム	平和ミュージアムだより
97	大阪市立住まい情報センター	あんじゅ
98	大津市歴史博物館	大津歴博だより
99	大阪市立科学館・大阪市立自然史博物館	OSAKA MUSEUMS
100	徳川美術館	葵
101	神奈川県立生命の星・地球博物館	自然科学のとびら
102	池田・落語みゅーじあむ	かみ落語
103	大宰府史跡指定 100 年と研究の歩み	九州国立博物館
104	天神縁起の世界	九州国立博物館
105	よみがえる正倉院宝物	再現模造に見る天平の技

No.	寄贈者	書名
106	きのくに刀剣ワールド	和歌山県立博物館
107	やっぱり石が好き！三重の岩石鉱物	三重県組合博物館
108	長瀬川と玉串川	柏原市立歴史資料館
109	日本書記と柏原	柏原市立歴史資料館
110	震災とモノが語る熊本地震 震災をふりかえる	熊本博物館
111	ひとのすがた、いのりのかたち －肖像彫刻の世界－	熊本博物館
112	新芦屋古墳 被葬者の謎にせまる	吹田市立博物館
113	新デザインへの渴望 京都高等工芸学校と ドイツ・オーストリアのアール・ヌーヴォー	美術工芸資料館
114	奈良 中宮寺の国宝	九州国立博物館
115	たばこ盆	たばこと塩の博物館
116	ユニバーサルミュージアム	国立民族学博物館
117	街道と生きる －宿駅生瀬の歴史と文化財－	西宮市郷土資料館
118	館報 熊本博物館	熊本博物館
119	館報 同志社大学歴史資料会	同志社大学歴史資料館
120	館報 橿原市立歴史資料館	柏原市立歴史資料館
121	館報 益富地学会館	益富地学会館
122	年報 京都市立学校歴史博物館	京都市立学校歴史博物館
123	年報 京都大学総合博物館	京都大学総合博物館
124	年報 たばこと塩の博物館	たばこと塩の博物館
125	年報 海事博物館研究	神戸大学大学院海事科学研究科
126	年報 西南学院大学博物館	西南学院大学
127	河内国志紀郡柏原村 三田家文書目録Ⅰ	柏原市立歴史資料館
128	九州国立博物館	平成 21-22 年度 九州国立博物館 文化財修理報告
129	刈谷市	本刈谷貝塚確認調査報告書
130	同志社大学歴史資料館	岩倉忠在地遺跡 Ⅲ
131	西宮市教育委員会	西宮の橋梁
132	京都芸術センター	2020 年度事業報告書
133	仙台市博物館	仙台市博物館調査研究報告
134	和歌山県立博物館	研究紀要
135	九州国立博物館	2020 東風西声
136	国立歴史民俗博物館	要覧 国立歴史民俗博物館
137	杏雨書屋	杏雨増刊号 「遊歴日記」
138	京都市芸術文化情報誌	藝文京 特集いま／これから
139	京都国際舞台芸術祭実行委員会事務局	京都国際舞台芸術祭 マガジン
140	京都市学校歴史博物館	作る見る語る 作家×研究者 トークイベントワークショップ関連冊子
141	和歌山市立博物館	加太淡嶋神社展 －女性・漁民の祈り－
142	堺市博物館	海を越えたつながり 倭の五王と東アジア
143	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	美術の教育 / 教育の美術
144	大阪城天守閣	テーマ展 豊臣時代
145	きょうと視覚文化振興財団	須田記念 視覚の現場 特集ジャンルを越えて
146	大阪市立大学大学史資料室	大阪市立大学史紀要
147	堺市博物館	堺市博物館研究報告
148	益富地学会館	館報
149	和泉市久保惣記念美術館	土佐派と住吉派 －やまと絵の展開と流派の個性－
150	関西学院大学博物館	キリスト教美術展
151	関西学院大学博物館	祈りの造形
152	関西学院大学博物館	バリ布の万華鏡 布が伝える美のこころ
153	池田市立歴史民俗資料館	古絵図に何がかがかかっている？ 絵図にみる池田市域
154	滋賀大学経済学部附属史料館	近江から見る流行病と近江の薬
155	西南学院大学博物館	長崎口と和華蘭文化 －異文化のさざ波－
156	長野県埋蔵文化財センター	浅川扇状地遺跡群 1・2
157	長野県埋蔵文化財センター	南大原遺跡 発掘調査報告書

No.	寄贈者	書名
158	金沢大学資料館	金沢大学と石川県の考古学 - 北陸人類学会から現在までの歩み -
159	阪急文化財団	阪急文化財団研究年報
160	益富地学会館	館報
161	大東市立歴史民俗資料館	館報
162	国立科学博物館	ミルシル 特集味覚
163	東北大学総合学術博物館	Omnividens
164	堺アルフォンス・ミュシャ館	ミュージアムニュース
165	アジア太平洋研究所	APIR NOW アジア太平洋と関西
166	立命館国際平和ミュージアム	ミュージアムだより
167	東京大学附属史料編纂所 附属画像史料解析センター	画像史料解析センター通信
168	真田宝物館	松代焼
169	大山崎町歴史資料館	大山崎神人と豊臣秀吉 ～「井尻家文書」の世界
170	堺市美術館	生誕 120 周年 高林和作 サバクに立つ画家の眼差し
171	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館紀要
172	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館年報
173	松代文化施設等管理事務所	松代 2020 年報
174	和歌山県立博物館	きのくにの名宝 和歌山県の国宝・重要文化財
175	和歌山県立博物館	きのくにの宗教美術 - 神仏のさまざまな姿 -
176	和歌山県立博物館	和歌山と皇室 - 宮内庁三の丸尚蔵館名品展 -
177	吹田市立博物館	吹田の絵図集
178	西南学院大学博物館	宣教師とキリシタン
179	益富地学会館	地学研究
180	益富地学会館	館報
181	大阪歴史博物館	年報
182	三重県総合博物館	寺院に伝わる戦国の残像 ～北畠氏のいた時代～
183	大阪府立狭山池博物館	狭山池のルーツ - 古代東アジアのため池と土木技術 -
184	松原市民ふるさとピアプラザ	北山橋庵展
185	西脇市岡之山美術館	堀尾昭子の現在
186	仙台市博物館	市史せんだい
187	立正大学ロースギャラリー特別展示室	海外仏跡調査展
188	大阪府立狭山池博物館	狭山池博物館研究報告
189	三重県総合博物館	年報
190	益富地学会館	館報
191	福井県立若狭歴史博物館	館報
192	大阪歴史博物館	特別展 難波をうたう - 万葉集と考古学 - 展示ガイドブック
193	東京国立近代美術館	あやしい絵展
194	大阪商業大学商業史博物館	大阪商業大学 商業史博物館紀要 第 22 号
195	大阪商業大学商業史博物館	大阪商業大学 商業史博物館資料目録 第 15 集
196	和歌山県立自然博物館	和歌山県立自然博物館 官報第 39 号 (令和 2 年度)
197	神奈川県立生命の星・地球博物館	神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報第 26 号 (2020 年度)
198	日本地学研究会	地学研究 vol.67
199	西宮市大谷記念美術館	石内都 見える見えない、写真のゆくえ
200	西宮市大谷記念美術館	喜多俊之 TIMELESS FUTURE
201	西宮市大谷記念美術館	西宮市大谷記念美術館 年報 2018 ～ 2020
202	秋田大学大学院国際資源学研究所 附属鉱業博物館	鉱業博物館だより 第 20 号
203	京都産業大学	第 24 回企画展 京都大原・魚山大原寺 勝林院と僧房
204	高槻市立今城塚古代歴史館	弥生時代開始期の近畿 - 縄文人と弥生人の共生 -
205	高槻市立今城塚古代歴史館	王家の丘 - 弁天山古墳群の系譜 -
206	国立民族学博物館	博物館とこども
207	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	武庫川女子大学附属総合ミュージアム 紀要・年報 第 1 号
208	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	王朝文化へのまなざし
209	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	阪神間モダンライフ
210	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所 紀要 第 42 号



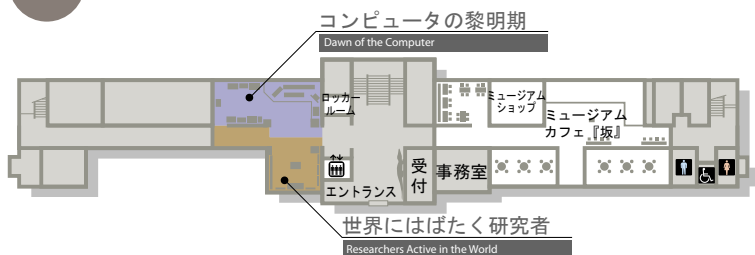
No.	寄贈者	書名
211	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	特別展 1969：和歌山大学の全共闘運動
212	益富地学会館	益富地学会館 館報 3月号
213	南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要 第40号
214	東京藝術大学	令和3年度 東京藝術大学 卒業・修了制作作品集
215	長野県埋蔵文化財センター	南相木村 孫七坂遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書
216	長野県埋蔵文化財センター	朝日村 氏神遺跡 肺臓文化財発掘調査報告書
217	國學院大學博物館	國學院大學博物館研究報告 第38輯
218	懷徳堂研究センター	懷徳堂研究 第13号



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

## 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



### コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

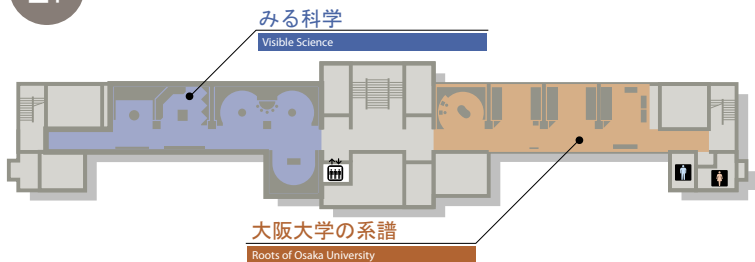
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

### 世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

### ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



### みる科学 Visible Science

### みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

### 大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

### 大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

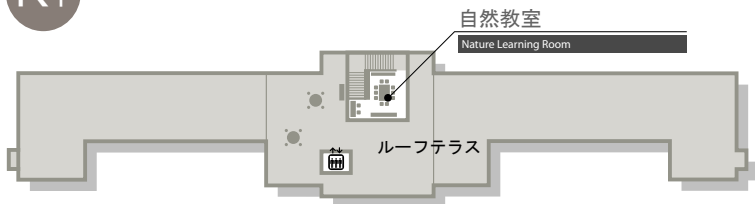


### 待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

### 待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



### 自然教室 Nature Learning Room

### 自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

---

大阪大学総合学術博物館  
年報 2021

2022年11月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館  
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13

印刷 株式会社 シンメイ社  
〒544-0034 大阪市生野区桃谷5-11-23

表紙デザイン 辻村紀子（アトリエツジムラ）

---





